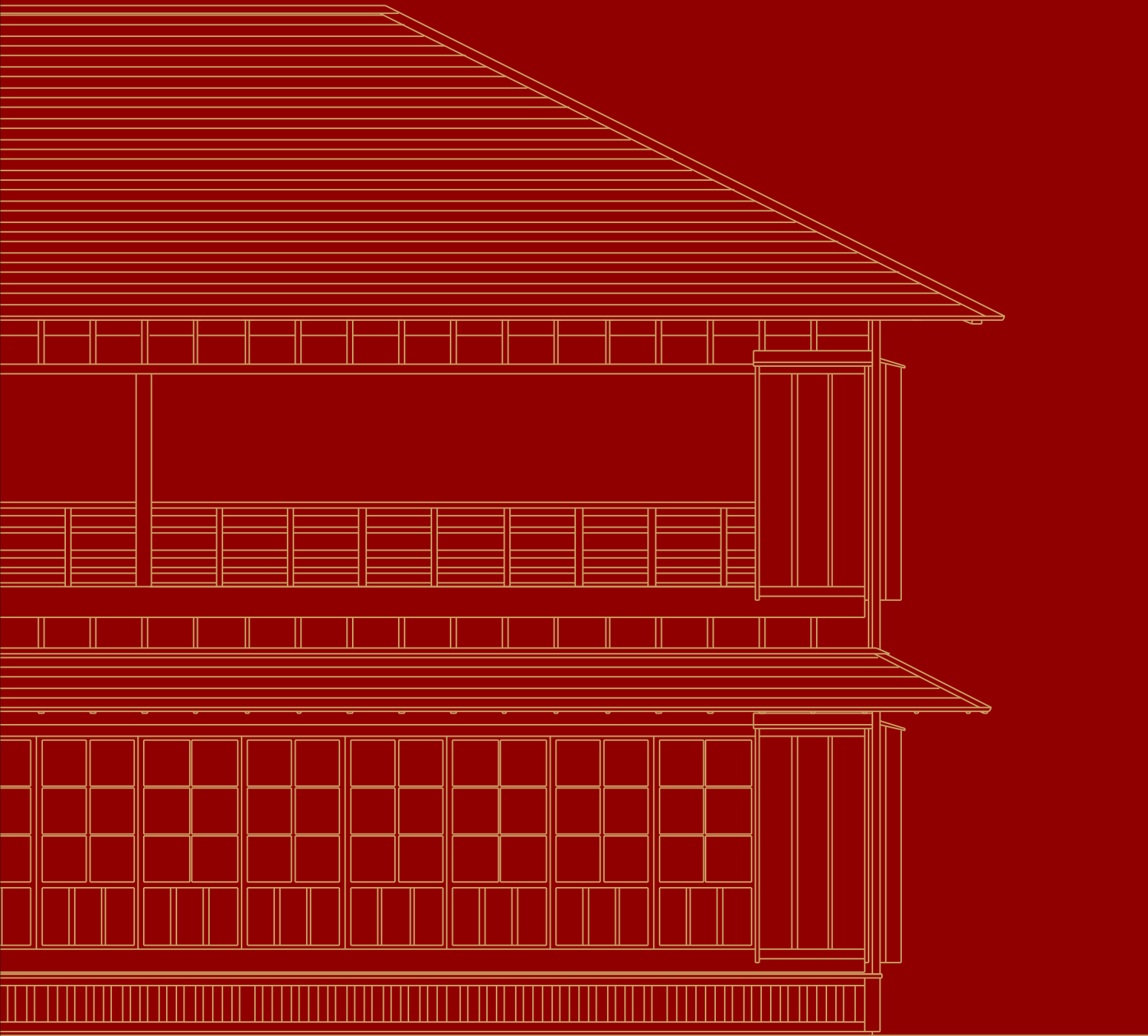


日本語版

FACE OF NIKKO●

NIKKO BRAND BOOK

日光ブランドブック

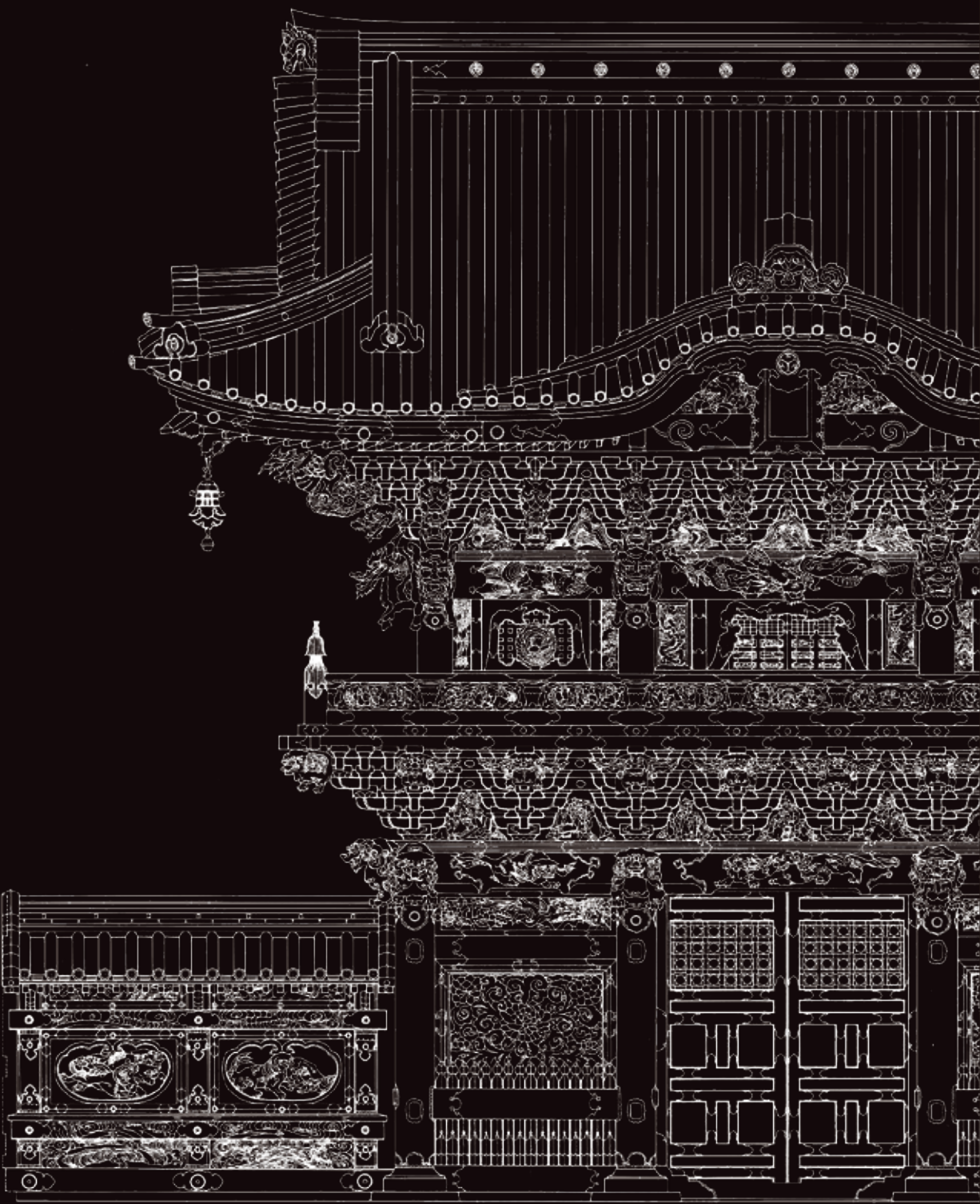


British Embassy Villa Memorial Park
英国大使館別荘記念公園

ENGLISH

FACE OF NIKKO●

NIKKO BRAND BOOK



Nikko Toshogu Shrine

いにしえ

神仏習合の聖地・日光。 悠久の歴史と文化をひも解く

立する。

観音信仰が盛んだった当時、男体山山頂に観音浄土を見た上人は、山に宿る神を崇め、また、自身の信仰を極めるために僧として初登頂を目指す。

深い原生林に阻まれるなど困難を極めたが、3度目にして念願の登頂を果たし、山頂に小さなほこらを建てた。これが現在の日光二荒山神社奥宮のはじまりとされる。

さらにその後、中禅寺湖北岸に神宮寺（現・日光山中禅寺）を建て、自ら彫った立木観音を本尊として祀るほか、日光山内に日光二荒山神社、滝尾神社、本宮神社の三社権現を勧請。以後、日光は神仏が住む地として崇められ、信仰の聖地として今日まで繁栄を続けている。

INDEX

- 2 神仏習合の聖地・日光
- 4 日光東照宮造営のインパクト
- 5 中禅寺湖畔のリゾートライフ
- 6 手つかずの自然は日光の財産
- 8 山岳信仰と修験道の霊場
- 10 源流域が織りなす水風景
- 12 日光四十八滝、名瀑ぞろい！
- 14 関東の奥座敷は温泉ワールド
- 17 地域が誇る唯一無二の歴史遺産
- 18 国際観光都市の悠久の歴史と文化
- 22 国際避暑地・日光の面影を求めて
- 24 風土が育んだ暮らしの文化
- 27 日本の近代産業を支えた大鉱脈
- 28 地域に受け継がれる伝統工芸
- 30 日光ブランド食分野特選5選
- 32 日光ブランドMAP
- 34 日光ブランド一 覧

中禅寺湖より男体山を望む

三社権現の神が宿る 山岳修験道の霊場

それまで未開の地だった日光は奈良時代、下野国（現在の栃木県真岡市）に生まれた僧侶、勝道上人（735〜817年）によって開山され、以来、1250年以上にわたる悠久の歴史を刻むことになる。

下野薬師寺で仏教の教えを受け、僧侶となった上人はのちに、山岳仏教の修行の場を求めて大谷川北岸に四本龍寺^{しほんりゅうじ}を建

FACE OF NIKKO

NIKKO BRAND BOOK

日光ブランドブック

歴史や文化、自然、地域の生活に根ざした食・風習・祭り、伝統工芸など多彩な魅力が溢れる日光。「これぞ、日光」と認定された資源の数々が「日光ブランド」です。
「FACE OF NIKKO」では日光が魅せる様々な顔をご紹介します。

近世

日光東照宮造営のインパクト

江戸と北極星を結ぶ、
遙かなる宇宙との繋がり

山岳信仰の聖地・日光は、江戸時代に入ると文化・経済の中心地として栄華を極めた。その発端となったのが江戸に徳川幕府を築き、初代將軍を務めた徳川家康公の遺言である。

「日光に小さき堂を建てて勸請し、自らを祀り、八州の鎮守となろう」

元和2年（1616）に没するまで日光の地を踏むことはなかったとされる家康公は、江戸城の真北に位置する日光を江戸と北極星を結ぶ中心軸と捉えた。自らが日光に祀られることで死後も神となつて世を治め、平和を維持しようとしたのである。

秀忠公によつて東照社（現・日光東照宮）が建立され、元和3年（1617）、家康公の御霊が久能山から遷座される。その後、三代將軍・家光公によつて「寛永の大造替」が行われ、現在の絢爛豪華な社殿に建て替えられた。

日光東照宮

イタリア大使館別荘記念公園

外交官たちが見出した 国際避暑地・日光の魅力

幕末から明治・大正にかけて日本を訪れた外交官たちによつて国際避暑地・日光の歴史が始まる。

明治維新直後に日光を訪れたイギリス人外交官、アーネスト・サトウ（1843～1929年）は、日光の魅力や観光情報をガイドブックとして出版。「NIK KO」の名はまたたく間に在日外国人たちに知れ渡つた。

明治32年、外国人の内地雑居が認められ国内を自由に旅行できるようになると、中禅寺湖畔には避暑を目的とした大使館別荘や外国人別荘が次々と建設され、昭和初期には40戸近くを数えた。

滞在中、彼らはヨット競技やボート遊び、フライフィッシング、ハンティングなどを楽しんだ。

以後、日光は国際避暑地として発展し、わが国におけるリゾートの原点となった。

中禅寺湖畔のリゾートライフ

近代

英国大使館別荘記念公園

日光東照宮百物揃千人武者行列

湯ノ湖 Lake Yunoko



● 自然 map | I-8

〔 所 〕日光地域
〔 問 〕日光市観光協会
〔 tel 〕0288-22-1525

フライフィッシングのメッカ

日光湯元温泉郷の玄関口に位置する湯ノ湖は、北東部にある三岳（みつだけ）の噴火で湯川がせき止められてできた山間の湖で、近年はレインボートラウトやヒメマスなどフライフィッシングのメッカとしても知られている。周囲は約3キロでノリウツギやダケカンバなどの広葉樹、ウラジロモミやコメツガなどの針葉樹が広がり、また、アズマシャクナゲやワタスゲ、ツルコケモモが自生。湖岸に散策路が整備され、手つかずの自然を気軽に楽しむことができる。

湯川 Yukawa River



● 自然 map | J-8

〔 所 〕日光地域
〔 問 〕日光市観光協会
〔 tel 〕0288-22-1525

戦場ヶ原を蛇行する一級河川

湯ノ湖（標高1478メートル）に源を発する湯川は、戦場ヶ原を緩やかに蛇行しながら流れ、竜頭ノ滝の下流付近で合流して地獄川と名前を変え、最終的には中禅寺湖の菖蒲ヶ浜に注ぐ。総延長はおよそ12キロで、流域の一部がラムサール条約湿地として登録されている。奥日光にフライフィッシング文化を根付かせたハンス・ハンターゆかりの川としても知られ、現在は全国でも珍しいカワマス（ブルックトラウト）の釣り場として人気が高い。

湯滝 Yudaki Falls



● 自然 map | J-8

〔 所 〕日光地域
〔 問 〕日光市観光協会
〔 tel 〕0288-22-1525

周辺はツツジやシャクナゲの名所

湯ノ湖の南端に位置し、華厳ノ滝、竜頭ノ滝と並ぶ「奥日光三名瀑」の一つ。高さ約70メートル、長さ約110メートルで、滝の下部が岩の形状によって左右二股に分かれ、末広がりの形になっている。滝の周辺には遊歩道が整備され、滝壺まで下りることができる。滝壺近くの観瀑台から見上げる様は迫力満点で、水しぶきと轟音に圧倒される。周辺はツツジやシャクナゲの名所で、春から夏にかけての開花期は観光客で大いににぎわう。

小田代原 Odashiro-ga-hara Wetland

ミズナラの森に囲まれた大草原

戦場ヶ原の西に広がる周囲約2キロの草原は、鬱蒼としたミズナラの森に囲まれ、その中央には「貴婦人」と呼ばれる1本のシラカンバの木が生えている。小田代原を含む「奥日光の湿原」はラムサール条約湿地に登録され、アヤマメやノハナショウブ、ウマノアシガタやホザキシモツケなど、湿原性植物と草原性植物が同居する多様な植物相を形成している。自然環境保全のため一般車両の乗り入れが規制され、4月末～11月は低公害バスが運行中。

● 自然

map | J-9

〔 所 〕日光地域
〔 問 〕日光市観光協会
〔 tel 〕0288-22-1525

戦場ヶ原 Senjo-ga-hara Wetland



● 自然 map | J-9

〔 所 〕日光地域
〔 問 〕日光市観光協会
〔 tel 〕0288-22-1525

標高1400メートルの広大な湿原

男体山と赤城山の2つの神が中禅寺湖をめぐって戦ったという神話に由来する戦場ヶ原。標高1400メートルに位置し、かつては広大な湖が広がっていたが、長い時間をかけて湿原化。およそ400ヘクタールの湿地帯には350種類にも及ぶ植物が自生し、6月中旬～8月上旬はワタスゲやホザキシモツケが見頃を迎える。オオジシギ、ノビタキなど湿地帯に生息する野鳥のメッカでもあり、ハイシーズンはハイカーやバードウォッチャーたちでにぎわいを見せる。

自然

FACE

01

ラムサール条約登録湿地 「奥日光の湿原」

手つかずの自然は日光の財産

多様性に富んだ 動植物の宝庫



日光自然博物館 仲田桂祐さん

日光の自然や動植物の魅力を伝える自然解説員の一人。平成13年から現職。得意分野は野鳥とカエル。

平成17年、アフリカのウガンダで開催された「第9回ラムサール条約締結国会議」で、奥日光の湿原がラムサール条約湿地に登録されました。登録エリアは湯ノ湖、湯川、戦場ヶ原、小田代原のうちの約260ヘクタールに及びます。

同エリアには山や川、湖、湿原など多様な自然がコンパクトに収まり、独自の環境を形成しています。例えば、本州最大の高層湿原である戦場ヶ原には100種以上の湿原性植物が確認され、湿原から草原への遷移過程にある小田代原には草原性植物が見られます。

植物だけでなく野鳥や昆虫など生物多様性にも富み、近年は環境教育の場として注目されるようになりました。希少な自然は日光の財産です。

FACE
04
白根山
Mt. Shirane

● 自然 map | A-4
〔 所 〕日光地域
〔 問 〕日光市観光協会
〔 tel 〕0288-22-1525

県境に位置する関東以北の最高峰

日光市と群馬県片品村の県境にある日光火山群。標高は2578メートルで関東以北では最も高い。奥白根山を主峰に前白根山、五色山、座禅山などの山々が連なり、その総称として日光白根山と呼ばれている。周辺には五色沼や湯ノ湖、戦場ヶ原などの自然が広がり、シラネアオイ等の貴重な高山植物の宝庫でもある。

FACE
05
皇海山
Mt. Sukai

● 自然 map | A-4
〔 所 〕足尾地域
〔 問 〕日光市観光協会
〔 tel 〕0288-22-1525

足尾連山の主峰は日本百名山の一つ

群馬県沼田市との境に位置する皇海山(すかいさん)は足尾連山の主峰。標高2144メートルの険しい山は日本百名山の一つに数えられている。かつては日光開山の祖・勝道上人の弟子たちによって開山され、山岳仏教の修行地となった。現代では栃木県を代表するブランドいちご「スカイベリー」の由来にもなっている。

FACE
06
庚申山
Mt. Koshin

● 自然 map | A-5
〔 所 〕足尾地域
〔 問 〕日光市観光協会
〔 tel 〕0288-22-1525

ハイカーでにぎわう花の名山

標高1892メートル。日光開山の祖・勝道上人に開かれたとされる庚申(こうしん)信仰の聖地は、江戸時代の読本作家・滝沢馬琴の小説『南総里見八犬伝』にも登場する。希少な食虫植物・コウシンソウは天然記念物に指定され、春はヤシオツツジやシャクナゲ、秋は紅葉が美しい。周辺はハイキングのメッカでもある。

山岳信仰と修験道の霊場

自然
FACE
02
男体山・女峰山・太郎山

Mt. Nantai / Mt. Nyoho / Mt. Taro

● 自然 map | K-9 / B-3 / B-3
〔 所 〕日光地域
〔 問 〕日光市観光協会
〔 tel 〕0288-22-1525

FACE
03
男体山登拝講社大祭
Mt. Nantai Climbing Festival for Worship

● 歴史 map | K-9
〔 所 〕日光地域
〔 問 〕日光二荒山神社
中宮祠
〔 tel 〕0288-55-0017

山頂からのご来光を目指す夜間登山

毎年5月5日に開山し、10月25日に閉山する男体山。奈良時代から1200年以上続く男体山登拝講社大祭は、7月31日から1週間にわたって行われる二荒山神社中宮祠の代表的な神事である。8月1日の午前零時の開門と同時に、多くの参加者が登拝門から山頂(奥宮)からの御来光を目指し、夜間登山が行われる。

名峰連なる日光の山々。
豊かな自然と希少な動植物

2000メートル級の山々が連なる日光連山のうち、男体山(2486メートル)、女峰山(2483メートル)、太郎山(2368メートル)を日光三山と呼ぶ。奈良時代に勝道上人によって開山された後、これらの山々は山岳信仰の対象となった。

中禅寺湖の北岸に位置する男体山は関東屈指の高山で、日本百名山の一つに数えられる。険しい道が連続し登頂は難を極めるが、山頂から尾瀬や会津の山々を360度の大パノラマで望むことができる。

日光連山の中で鋭く尖った山容で知られる女峰山は、北側を鬼怒川、南側を大谷川が流れ、上流部に雲竜溪谷と呼ばれる絶景スポットがある。特に厳寒期の氷瀑が有名でトレッキングツアーなど真冬でも観光客が絶えない。

戦場ヶ原の北東部にそびえる太郎山は独立した山容が特徴で、ウスユキソウやハクサンフウロなどの高山植物のメッカである。山頂からは男体山や女峰山、白根山や皇海山など日光を代表する山々を一望できるほか、眼下に広大な戦場ヶ原や遠くに中禅寺湖が見渡せる。

FACE

10

楯岩

Tateiwa Rock



鬼怒川温泉を代表する名勝

鬼怒川温泉大原付近の岸壁にそそり立つ「楯岩」は、同温泉郷を代表する名勝の一つ。高さ100メートルほどの岩は、戦で使用する楯に似ていることからその名が付いたとされている。

下流にかかる鬼怒楯岩大吊橋は、温泉街と対岸の楯岩を結ぶ歩道専用の吊り橋で、全長約140メートル、高さ約40メートルに及ぶ。橋の上から見下ろす鬼怒川の急峻な流れと険しい渓谷は一見の価値があり、数多くの観光客が訪れる人気の観光スポットになった。

年間を通して観光客が絶えないが、特に秋口の錦秋に染まる渓谷美は圧巻。遠く望む高原山系の山並みと相まって、雄大な景色を堪能することができる。

また、鬼怒川(女性)と楯岩(男性)をつなぐ「縁結びの橋」としても評判に。

● 自然

map | D-3

[所] 藤原地域
[問] 日光市観光協会
[tel] 0288-22-1525

FACE

09

川俣瀬戸合峡

Kawamata Seto-aikyō Gorge



深山の峡谷は紅葉の名所

鬼怒川の上流部、川俣ダムの下流域に広がる川俣瀬戸合峡は、長い時間をかけて凝灰岩が浸食された断崖絶壁で、その深さはおよそ100メートルにも及ぶ。切り立った峡谷はおよそ2キロにわたって続き、まるで山水画のような絶景をつくり出している。

アーチ式コンクリートダムとして設計された川俣ダム。そのなだらかな曲線を描くアーチの正面に「渡るっしい吊橋」が掛かっている。もともとあったダム管理用の吊り橋を架け替えて一般開放したもので、その高さは約100メートル、長さは約75メートルにも及ぶ。

吊り橋までは遊歩道が整備され、駐車場から歩いて20分ほど。紅葉の名所として知られ、秋には多くの観光客が訪れている。

● 自然

map | B-3

[所] 栗山地域
[問] 日光市観光協会
[tel] 0288-22-1525

FACE

08

鬼怒川

Kinugawa River



地域を潤す豊かな水資源と観光資源

日光国立公園内の鬼怒沼に源を発する鬼怒川(全長176.7キロ)は、栃木県内を南北に流れる一級河川で、茨城県守谷市付近で利根川と合流する。

上流域は火山地帯で2000メートル級の山々が連なり、瀬戸合峡や龍王峡に代表される険しい渓谷が連続。巨石や奇石・珍石、名瀑など独自の景観をつくり出している。

鬼怒川とその支流も含め流域には多くのダム湖が点在し、治水や利水によって流域住民の暮らしの安全と産業の発展を支えてきた。

流域には上流部から、奥鬼怒温泉郷、女夫瀧温泉、川俣温泉、湯西川温泉、川治温泉、鬼怒川温泉などの名湯が点在している。特に全国屈指の一大温泉郷である鬼怒川温泉は「関東の奥座敷」と称されるほど。流域ではライン下りやラフティングなどアクティビティも充実している。

● 自然

map | D-3

[所] 藤原地域
[問] 日光市観光協会
[tel] 0288-22-1525

自然

FACE

07

龍王峡

源流域が織りなす水風景

勝道上人が開山した
聖地・日光の原点

今からおよそ2200万年前、地下の海底火山から地上へ噴出した火山岩が川の流れによって侵食され、長い時間をかけて現在のような景観になったといわれている。

切り立った火山岩の渓谷を、うねうねと縫うように流れる鬼怒川はまさに龍の如し。その名の由来にもなった。

迫力満点の渓谷美は川治温泉郷から鬼怒川温泉郷までのおよそ3キロにわたって続き、藤原地域を代表する観光名所の一つになっている。

片道約2キロの遊歩道は岩の種類や色によって3つにエリア分けされている。下流域から順に、白っぽい流紋岩が割れ目を覗かせる「白龍峡」、青味を帯びた緑色凝灰岩が切り立つ「青龍峡」、紫がかった安山岩に覆われた「紫龍峡」が上流域まで続く。

途中、巨石や奇石、滝などが点在し、変化に富んだ渓谷の表情が楽しめる。

FACE

12

憾満ヶ淵・並び地蔵(化け地蔵)

Kanman-ga-fuchi Abyss/Line of Jizo Stone Statues



● 自然

map | E-7

[所] 日光地域
[問] 日光市観光協会
[tel] 0288-22-1525

数々の伝説に包まれた小渓谷

大谷川沿いの小渓谷は、男体山の噴出による溶岩でできた奇勝地。川岸の巨岩に安置されていた晃海僧正(こうかいそうじょう)造立の不動明王の石像の真言がその名の由来といわれている。含満公園の近くには、数えるたびに数が違う化地蔵(ばけじぞう)と呼ばれるおよそ70体の地蔵群が鎮座している。

FACE

11

大谷川

Daiya-gawa River



● 自然

map | D-4

[所] 日光地域・今市地域
[問] 日光市観光協会
[tel] 0288-22-1525

中禅寺湖を源流とする一級河川

中禅寺湖を源流とする大谷川は鬼怒川の支流で、全長は約30キロに及ぶ。大谷川とその支流には、華厳ノ滝を筆頭に白雲ノ滝、裏見ノ滝、寂光ノ滝、白糸ノ滝などの名瀑が点在している。川沿いには県営日光だいや川公園や大谷川グリーンパーク等市民の憩いの場がある。

FACE

14

渡良瀬川

Watarase-gawa River



● 自然

map | A-5

[所] 足尾地域
[問] 日光市観光協会
[tel] 0288-22-1525

足尾地域の地名「渡良瀬」に由来

日光市と群馬県沼田市の境にある皇海山(2144メートル)に源を発する利根川水系の一級河川。渓谷の急峻な流れに沿うように、トロッコ列車で有名なわたらせ渓谷鐵道(愛称・わ鐵)が運行している。時期によってオープンタイプの列車が運行され、特に秋口の錦秋に染まる渓谷美は見応えがある。

FACE

13

男鹿川

Ojika-gawa River



● 自然

map | D-2

[所] 藤原地域
[問] 日光市観光協会
[tel] 0288-22-1525

カジカの生息地は溪流釣りのメッカ

福島県との県境付近にある男鹿岳(1777メートル)に源を発する利根川水系の一級河川。五十里湖を経て川治温泉付近で鬼怒川と合流する。源流域は清流だけに住むカジカの生息地で、イワナやヤマメなど溪流魚の魚影も濃い。

FACE 20 中禅寺湖 Lake Chuzenji



● 自然 map | J-10

〔所〕日光地域
〔問〕日光市観光協会
〔tel〕0288-22-1525

国際避暑地として発展した県内最大の湖

男体山の麓に位置する周囲約25キロ、最大水深163メートルの中禅寺湖は、およそ2万年前の男体山の噴火によって生まれたせき止め湖である。栃木県内最大、日本国内では25番目の面積規模を有する湖沼で、広さ4平方キロメートル以上の湖としては日本一高い場所にある。

明治中期以降、欧米各国の外交官たちが避暑に訪れるようになり、湖畔には大使館別荘が次々と建設された。フライフィッシングやボート遊び等のレジャーを楽しむ外国人たちによって奥日光は独自の文化的発展を遂げ、国内有数のリゾート地として注目を集めるようになる。

湖畔には定期的な遊覧船、日光二荒山神社中宮祠、日光山中禅寺（立木観音）、中禅寺温泉などのレジャー&観光スポットのほか、最近ではイタリア、英国の大使館別荘が県の観光施設として再整備され話題を呼んでいる。

FACE 22 稲荷川砂防堰堤群 Inari River Erosion Control Dams



● 歴史 map | C-4

〔所〕日光地域
〔問〕国土交通省 関東地方整備局
日光砂防事務所
〔tel〕0288-54-1191

暮らしを守る砂防堰堤が土木遺産に

大谷川の支流の稲荷川はかつて「暴れ川」として知られ、台風や大雨の度に氾濫を繰り返してきた。大正時代初期より流域に多数の砂防堰堤が整備され、以後、人々の生命と財産を守ってきたわけだが、そのうち8基が国の登録有形文化財に指定され、それらを含む16基が公益社団法人土木学会の「選奨土木遺産」（平成26年度）に認定された。

認定施設は大正9年から昭和12年までに完成した稲荷川第2砂防堰堤を始めとする堰堤群で、「比類のない意匠的特徴とともに近代砂防の歴史を伝える重厚壮麗な土木遺産であること」が評価された。

これらの砂防堰堤群は世界遺産「日光の社寺」のすぐ東側に位置していることから、日光ソーデーウォークのコースなど観光資源の一つとして活用されている。

FACE 19 鬼怒沼 Kinunuma Wetland



● 自然 map | A-3

〔所〕栗山地域
〔問〕日光市観光協会
〔tel〕0288-22-1525

日本最高所の湿原は高山植物の宝庫

鬼怒沼山の南麓、標高2040メートルに位置する鬼怒沼は日本最高所の高層湿原で、大小48の沼で構成されている。かつては一つの噴火口だったが、長い年月を経て現在のような大小さまざまな沼に分かれたとされる。

それぞれに水温、水位、水質が異なるのが特徴で、環境省の「日本の重要湿原500」にも選定されるほど希少かつ原初的な自然が残っている。

鬼怒川の水源地でもあるここは、チングルマやヒメジャクナゲ、ヒオウギアヤメやキンコウカなどが生息する高山植物の宝庫としても知られている。6月の水芭蕉の開花を皮切りに、盛夏の高山植物、8月下旬の草紅葉、秋の紅葉などが楽しめる。

奥鬼怒温泉郷から徒歩で片道2時間30分～3時間ほどかかる別天地だが、ハイカーたちの人気も高く、ハイキングコースが整備されている。

FACE 21 鬼怒川上流ダム群 Kinugawa River Upstream Dams



● 自然 map | C-2

〔所〕藤原地域、栗山地域
〔問〕日光市観光協会
〔tel〕0288-22-1525

見学ツアーやダムカードが観光の目玉に

鬼怒川の上流域には国土交通省が管理する4つのダム群があり、下流域の治水や利水の役割を果たしている。

東京・日本橋から五十里（約200キロ）の距離にあることから命名された多目的ダムの五十里ダム（昭和31年完成 五十里湖）、アーチ式コンクリートダムとして建設された川俣ダム（昭和41年完成 川俣湖）と川治ダム（昭和58年完成 八汐湖）、水陸両用バスでダム湖遊覧クルージングが楽しめる湯西川ダム（平成24年完成 湯西川湖）のダム群は近年、見学ツアーなど観光スポットとしても注目を集めている。

最近ブームの「ダムカード」はそれぞれのダムに行かないと入手できないレアアイテムで、ダムカードを目的に訪れる観光客も少なくない。

自然

FACE 15 華厳ノ滝



Kegon Falls

● 自然 map | K-10

〔所〕日光地域
〔問〕日光市観光協会
〔tel〕0288-22-1525

97メートルを流れ落ちる、日本三大名瀑の一つ
和歌山県的那智ノ滝、茨城県の袋田ノ滝とともに日本三大名瀑の一つに数えられる華厳ノ滝は、「日光四十八滝」といわれるほど滝が多い中で最も有名かつスケールが大きい。
中禅寺湖から流れる水が一気に落下する様は圧巻で高さ約97メートル、幅約7メートルにも及ぶ。落差、幅、迫力とも他に類を見ない文字通りの大瀑布だ。
周辺は観光名所として整備が進み、滝壺近くの観瀑台まではエレベーター（有料）で行くことができる。水が流れ落ちる爆音と、水しぶきが弾ける様は迫力満点。周囲に漂うマイナスイオンが爽快感とともに心を癒やしてくれる。
四季ごとに表情があり、春の芽吹き、初夏の新緑、秋の紅葉はそれぞれの季節の絶景。水しぶきが凍結する真冬は滝全体がブルーアイスに彩られる。
季節を問わず快晴の日は、滝壺付近に大きな二重の虹がかかるなど、幻想的な風景を楽しむことができる。

FACE 18 霧降ノ滝 Kirifuri Falls



霧のように飛び散る名瀑

霧降高原の険しい山の中、霧降川にかかる滝は上下2段に分かれる分岐瀑。下段の流れが岩にぶつかり、霧のように飛び散る様からその名が付いたとされる。

● 自然 map | C-4

〔所〕日光地域
〔問〕日光市観光協会
〔tel〕0288-22-1525

FACE 17 裏見ノ滝 Urami Falls



芭蕉も訪れた日光三名瀑

荒沢川の高さ約45メートル滝で、華厳ノ滝、霧降ノ滝とともに日光三名瀑の一つ。奥の細道行脚で訪れた芭蕉は「暫時は滝に籠るや夏の初」の句を残した。

● 自然 map | B-4

〔所〕日光地域
〔問〕日光市観光協会
〔tel〕0288-22-1525

FACE 16 竜頭ノ滝 Ryuzu Falls



奥日光を代表する紅葉の名所

男体山の噴火による溶岩の上を210メートルにわたって流れ落ちる名瀑。滝壺近くで巨岩によって二分される様子が竜の頭に見えることからその名が付いた。

● 自然 map | J-9

〔所〕日光地域
〔問〕日光市観光協会
〔tel〕0288-22-1525

日光四十八滝、名瀑ぞろい！

FACE
25

川治温泉

Kawaji Onsen



● 自然 map | D-3

〔所〕藤原地域
〔問〕日光市観光協会
〔tel〕0288-22-1525

傷は川治 火傷は滝

男鹿川と鬼怒川が合流する渓谷沿いのひなびた温泉郷は江戸時代の開湯。会津街道の宿場町にあり、昔から湯治場として親しまれてきた。泉質はアルカリ性単純泉で神経痛やリュウマチなどの鎮静化、疲労回復のほか、傷などの早期回復に効能があるとされている。龍王峡にも近く、遊歩道が整備されている。

FACE
27

川俣温泉の間欠泉

Kawamata Onsen Geyser



● 自然 map | B-3

〔所〕栗山地域
〔問〕日光市観光協会
〔tel〕0288-22-1525

噴き上がる白煙と湯柱の迫力

河原の岩の間から勢いよく熱湯が噴き上がる間欠泉は川俣温泉郷の名物。高さ15メートルほどの白煙と湯柱は、鬼怒川に架かる噴泉橋や間欠泉展望台から見る事ができる。白い蒸気は120度にも達する高温泉で、30～50分間隔で轟音とともに噴出。その迫力に自然のダイナミズムを感じることができる。

FACE
29

湯西川温泉

Yunishigawa Onsen



● 自然 map | C-2

〔所〕栗山地域
〔問〕日光市観光協会
〔tel〕0288-22-1525

平家落人が傷を癒やした伝説の湯

湯西川沿いにあることから名付けられた湯西川温泉郷は、壇ノ浦の合戦に敗れ逃れてきた平家落人が発見し、戦いの傷を癒やした温泉と伝えられている。静かな環境が魅力で、地元産の素材を囲炉裏でじっくりと焼く平家落人料理をはじめ、川魚や野鳥、鹿や熊、山椒魚を始めとする珍味の数々が味わえる。

FACE
24

鬼怒川温泉

Kinugawa Onsen



● 自然 map | D-3

〔所〕藤原地域
〔問〕日光市観光協会
〔tel〕0288-22-1525

渓谷美が魅力の一大温泉郷

今や全国区にその名が知られ、関東有数の規模を誇る温泉郷は、発見当初の江戸時代は日光詣の僧侶や大名のみしか入湯できなかった。一般開放されたのは明治時代以降で、その後、ホテル・旅館が建ち並ぶ一大温泉郷に発展する。泉質はアルカリ性単純温泉で神経痛や火傷、疲労回復や健康増進に効果が高い。

FACE
26

川俣温泉

Kawamata Onsen



● 自然 map | B-3

〔所〕栗山地域
〔問〕日光市観光協会
〔tel〕0288-22-1525

渓谷沿いの温泉は秘境ムードたっぷり

巨石の間を縫うように、勢いよく流れる鬼怒川上流部にある温泉郷。自然豊かな山あいの湯は、秘境ムードたっぷりで温泉通からの評価も高い。温泉宿の多くは鬼怒川の渓谷沿いや川俣湖周辺に位置し、いずれも絶景の露天風呂が自慢。大自然の中に身を置きながら、こんこんと湧く出で湯に浸ることができる。

FACE
28

奥鬼怒温泉

Oku-Kinu Onsen



● 自然 map | A-3

〔所〕栗山地域
〔問〕日光市観光協会
〔tel〕0288-22-1525

原生林に囲まれた関東最後の秘湯

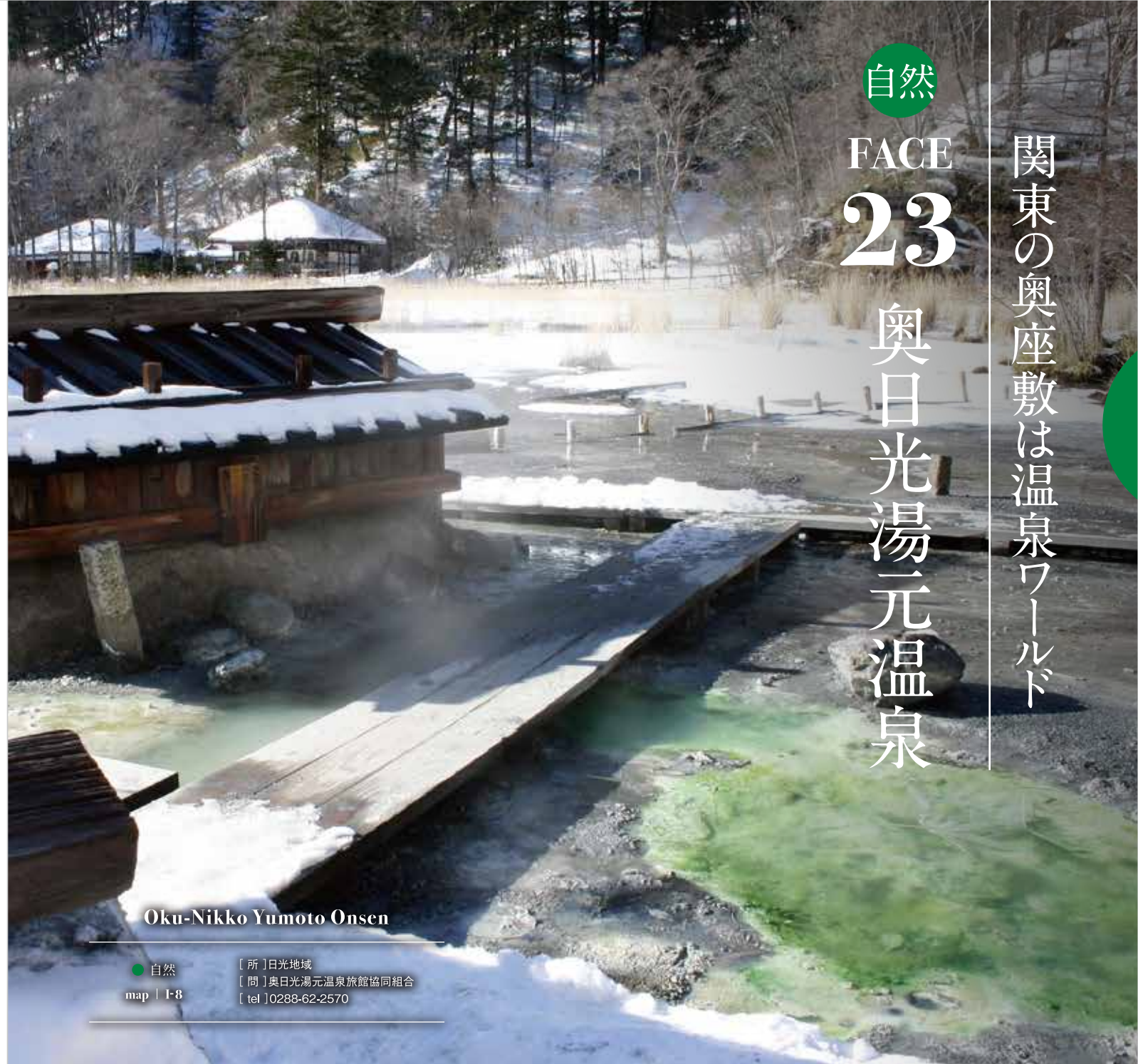
「関東最後の秘湯」と称される奥鬼怒温泉郷には加仁湯、手白沢温泉、日光沢温泉、八丁の湯の4つの秘湯が点在し、「奥鬼怒四湯」と呼ばれている。鬱蒼としたブナの原生林に囲まれた各湯宿へは、宿の送迎バスを利用するか片道1時間程度の山道を歩かなければならない。まさに人里離れた秘湯中の秘湯である。

自然

FACE
23

奥日光湯元温泉

関東の奥座敷は温泉ワールド



Oku-Nikko Yumoto Onsen

● 自然

map | F-8

〔所〕日光地域
〔問〕奥日光湯元温泉旅館協同組合
〔tel〕0288-62-2570勝道上人が開山した
聖地・日光の原点

延暦7年（788）、日光開山の祖・勝道上人が発見したとされる湯ノ湖畔の温泉郷は、昔も今も湯けむりとともに濃密な硫黄の香りを漂わせている。

湖と原生林に囲まれた閑静な温泉郷は、開湯以来、長きにわたり湯治場として親しまれてきた。

泉質は硫化水素型の単純硫黄泉。毎分約1800リットルの豊富な湯量を誇り、泉温は約49～78度とすこぶる高い。硫黄の濃さは全国屈指だ。

源泉の色は透明感のあるエメラルドグリーンだが、地上で空気に触れるとしっかりとした乳白色に変化する。

効能は美肌効果に優れ、糖尿病・神経痛・慢性婦人病・病後回復期などに効果があるとされている。

同温泉郷には全国でも珍しい入浴施設を併設する寺がある。「日光山輪王寺別院・温泉寺」はだれでも日帰り参籠（入浴休憩）が可能。名湯「薬師湯」に肩までどっぷり浸かれば、お薬師様の「健康増進・延命長寿」のご利益をいただくことができる（期間／4月中旬～11月下旬）。

自然

FACE
34

日光杉並木街道

地域が誇る唯一無二の歴史遺産

Nikko Cedar Avenue

● 自然
map | C-4
〔 所 〕今市地域・日光地域
〔 問 〕日光市観光協会
〔 tel 〕0288-22-1525

FACE

31

大笹牧場

Ozasa Ranch



● 自然 map | C-3

〔 所 〕今市地域
〔 問 〕日光霧降高原
大笹牧場
〔 tel 〕0288-97-1116

グルメや体験が充実した放牧育成牧場

日光国立公園内の標高1030～1320mに位置する大笹牧場は、面積362ヘクタールと全国屈指の広さを誇る。自然環境を生かした放牧育成牧場で、関東平野を一望できる絶好のロケーションが自慢だ。

牧場内には動物と触れ合える施設やアスレチックなどの各種遊具が整備され、また、レストハウスでは名物ジンギスカン料理が味わえるなど、家族連れで楽しめる観光名所として人気が高い。

アイスクリームやバター、ワッフルづくりなど体験イベントが充実しているほか、4月末～10月末はオートキャンプ、12月下旬～3月中旬はスノーモービルなど体験型のアトラクションも盛りだくさん。

レストハウス内の土産売場では、ブラウンスイス牛乳を使用したこだわり乳製品やスイーツなど、牧場自慢のオリジナル商品が揃っている。

FACE

33

栃木県立日光自然博物館

Nikko Natural Science Museum in Tochigi Prefecture



● 自然 map | K-10

〔 所 〕日光地域
〔 問 〕栃木県立
日光自然博物館
〔 tel 〕0288-55-0880

奥日光の自然・文化にぐわしくなる

奥日光の情報発信基地として自然情報や観光情報を提供する同館は、最新の映像設備、展示ツールを使って日光の自然や動植物、歴史などをわかりやすく紹介している。

例えば、日光の地形・地質の特徴や成り立ち、滝や湖沼など自然環境の特徴、地域に生息する動植物の種類や傾向のほか、国際避暑地として発展した経緯など、自然だけでなく歴史・文化も含めて詳しく解説している。

また、地域の自然や歴史等を掘り下げた企画展や特別展を開催。まさに奥日光のことなら何でもわかる「ものしり館」だ。

この他にも季節に応じて、自然観察会の開催や野外学習などの自然体験イベントを実施。雪に閉ざされる真冬でも、スノーシューや雪上ハイキングなど体験イベントがずらり。年間を通して日光の自然を学ぶことができる。

FACE

30

霧降高原キスゲ平

Kirifuri Highland Kisuge-daira Hiking Park



● 自然 map | C-3

〔 所 〕日光地域
〔 問 〕霧降高原
キスゲ平園地
〔 tel 〕0288-53-5337

関東平野を一望できる天空のお花畑

毎年6月中旬から7月中旬にかけて、市の花「ニッコウキスゲ」が初夏の霧降高原を彩る。この時期、日光連山東端の赤薙（あかなぎ）山の中腹、標高1300～1500メートルに位置する霧降高原キスゲ平は「黄色いじゅうたん」と形容されるほど。ニッコウキスゲの群生地はまさに「天空のお花畑」の様相を呈する。

平成25年4月、スキー場跡地にリニューアルオープンした「日光市霧降高原キスゲ平園地」は、土地の形状を利用した自然公園で、レストハウスから小丸山展望台まで1445段の階段「天空回廊」が整備されている。その高低差は240メートルあり、展望台からの景色は関東平野を一望。晴れた日は日光の山々はもちろん、遠くに富士山や東京スカイツリーを見渡せる。

春と秋の早朝、気象条件が整えば「雲海」を目にすることも。霧の中に山々が浮かぶ自然がつくり出す絶景が楽しめる。

FACE

32

シモツケコウホネ群生地

Shimotsuke Nuphar Japonica Colony



● 自然 map | D-5

〔 所 〕今市地域
〔 問 〕シモツケコウホネと
里を守る会

黄色い可憐な花は地域固有の希少種

シモツケコウホネ（下野河骨）はスイレン科の多年草で、水田など流れのある水路に生育する。

毎年6月中旬ごろ、黄色いが片に覆われた花だけを水面からちょこんとのぞかせる様が愛らしい。葉は沈水葉として水面下にある点が他のコウホネ属と違って、調査により地域固有の新種であることがわかった。

国内でも栃木県内の数カ所にしか生育しないシモツケコウホネは、平成18年に環境省の絶滅危惧IA類に指定。ごく近い将来、野生での絶滅の危険性が極めて高い植物の一つになった。

日光市小代の水田地帯にはシモツケコウホネの群生地があり、周辺住民は地域の財産として「シモツケコウホネと里を守る会」を組織。地域固有の希少種の保全に努めている。

総延長37キロに及ぶ、世界一長い並木道

日光杉並木は、徳川家康の家臣・松平正綱公が日光東照宮に寄進するため植栽したもので、寛永2年（1625）ごろからおおよそ20年の歳月をかけて取り組み、一説には5万本が植栽されたと伝えられている。

およそ400年を経た現在は約1万2350本（平成25年度現在）が現存し、高さ30メートルほどに生長した銘木は独自の景観をつくり出している。

日光杉並木街道は日光街道・例幣使街道・会津西街道の3つの街道からなる総延長37キロに及ぶ並木道で、日本で唯一、国の特別史跡と特別天然記念物に二重指定されている。

平成3年には「世界一長い並木道」としてギネスブックに認定されるなど、地域の歴史遺産は世界レベルでも評価が高い。

世界遺産・日光へ続く道はウォーキングやサイクリングにぴったり。毎年8月に開催される「日光杉並木マラソン」のコースにもなっている。

日光二荒山神社 Nikko Futarasan-jinja Shrine

● 歴史
map | F-6

〔所〕日光地域
〔問〕日光二荒山神社
〔tel〕0288-54-0535

本殿は日光山内で最も古い木造建築物で、二代将軍・秀忠公の寄進とされています。安土桃山様式の流れを汲む八棟造りと呼ばれる優美な姿が目を惹きます。大谷川に架かる神橋も日光二荒山神社の神域の一部です。世界遺産の玄関口に架かる朱塗りの橋は、日光の「顔」と言っても過言ではありません。

FACE 39

日光二荒山神社弥生祭付祭若衆制度

Nikko Futarasan-jinja Shrine Yayoi Festival Leadership by Young People



● 風習 map | F-6
〔期〕毎年4月17日(付祭)
〔所〕日光地域
〔問〕日光二荒山神社
〔tel〕0288-54-0535

江戸時代より継承される独自の風習

日光に春の訪れを告げる「弥生祭」の家体献備行事(付祭)を支える若衆制度。徳川家康公に仕えた天海大僧正が神賑に奉仕する者を若衆と定め、規約を授けたことに由来する。以来今日まで、地域の人々によって継承され、厳格な規律の中で付祭が執り行われている。栃木県指定無形民俗文化財。

日光東照宮 Nikko Toshogu Shrine

● 歴史
map | F-6

〔所〕日光地域
〔問〕日光東照宮
〔tel〕0288-54-0560

私たち「堂者引き」は世界遺産である日光の社寺に精通した案内役です。約360年程前の明暦元年(1655)に始まり、大名・将軍名代・諸奉行家来をはじめ一般人の社寺案内を勤めていました。以来、日光ならではの専門職として連綿と受け継がれています。日光の社寺を観光する際、神域全体を俯瞰し、「城」の視点で眺めると興味深い点に気づきます。例えば、初代将軍・徳川家康公を祀る日光東照宮は男体山をはじめとする日光

偉大な先人たちの メッセージを読み解く



日光殿堂案内協同組合理事長
春日武之さん

約40年、堂者引きとして日光二社一寺の観光ガイドに携わる。昭和62年に同組合理事長に就任。

FACE 37

日光東照宮百物揃千人武者行列

Nikko Toshogu Shrine One Thousand Warriors Procession



● 歴史 map | F-6
〔期〕毎年5月18日、10月17日
〔所〕日光地域
〔問〕日光東照宮
〔tel〕0288-54-0560

雅やかな大祭のハイライト

神輿渡御祭「百物揃千人武者行列」は春と秋の年2回開催される日光東照宮を代表する行事で、春は5月18日に、秋は10月17日に行われる。徳川家康公の神霊を駿府久能山から日光へ改葬した当時の行列を再現したもので、神輿を中心に鎧武者など1200余名が約1キロの道のりを隊列を組んで練り歩く。

歴史

FACE 35 世界遺産「日光の社寺」

国際観光都市の悠久の歴史と文化

FACE 38

日光二荒山神社弥生祭付祭

Nikko Futarasan-jinja Shrine Yayoi Festival



● 歴史 map | F-6
〔期〕毎年4月17日(付祭)
〔所〕日光地域
〔問〕日光二荒山神社
〔tel〕0288-54-0535

春の訪れを告げる伝統行事

1200有余年の歴史を誇る「弥生祭」は日光を代表する伝統行事の一つで、江戸時代から続く付祭(つけまつり)も長い歴史を有している。日光では昔から「屋台」を「家体」と呼び、付祭では造花で彩られた11台の家体がにぎやかに繰り出し、地域に春の訪れを告げる。栃木県指定無形民俗文化財。

FACE 36

日光東照宮神事流鏑馬

Nikko Toshogu Shrine Yabusame (Horseback Archery)



● 歴史 map | F-6
〔期〕毎年5月17日、10月16日
〔所〕日光地域
〔問〕日光東照宮
〔tel〕0288-54-0560

息を呑む、射手の妙技

日光東照宮で最も盛大な行事「例大祭」は春と秋の年2回開催され、春は5月17日に、秋は10月16日に小笠原流による「神事流鏑馬(やぶさめ)」が奉納される。東照宮石鳥居手前の表参道特設馬場を会場に、疾走する馬を操る射手の妙技と、神業ともいえる弓さばきが最大の見所。

FACE
42日光二荒山神社中宮祠
Nikko Futarasan-jinja Shrine Chugushi

男体山山麓、中禅寺湖畔に鎮座する神社

男体山のお膝元、中禅寺湖の北岸に位置する日光二荒山神社中宮祠は、天応2年(782)、日光開山の祖・勝道上人が男体山を初登頂したのち、延暦3年(784)に建立。男体山山頂の二荒山神社奥宮と、日光市内の二荒山本社の間にあることから中宮祠と名付けられた。

境内には貴重な建築物が数多く、本殿や唐門、拝殿を始め7棟が国の重要文化財に指定されている。

古くからここは男体山登山の表口とされ、本殿の脇に「男体山奥宮登拝口」と書かれた山門が建ち、毎年5月5日(開山祭)～10月25日(閉山祭)までの期間のみ門が開く。

社務所に隣接する宝物館は、二荒山神社が所有する宝物を集めた博物館で、刀剣や神輿等の品々を展示。奥宮のある男体山山頂付近から出土した祭祀異物(銅鏡・銅印・古銭等)など貴重な重要文化財を間近に見ることができる。

● 歴史
map | K-10〔所〕日光地域
〔問〕日光二荒山神社中宮祠
〔tel〕0288-55-0017● 歴史
map | K-10〔所〕日光地域
〔問〕日光山中禅寺
〔tel〕0288-55-0013FACE
43日光山中禅寺
Nikko-zan Chuzenji Temple

勝道上人建立の日光山輪王寺別院

男体山山頂を極めた勝道上人は、延暦3年(784)に日光山輪王寺の別院として中禅寺を建立する。

国の重要文化財にも指定される御本尊「十一面千手観世音菩薩」は、勝道上人が中禅寺湖上に現れた千手観音の姿を、自らの手で桂の木に彫ったと伝えられている。根が張ったままの状態で彫られたことから「立木」と称された。

ところが、明治35年の大山津波により寺全体が壊滅的な被害を受け、本尊は観音堂とともに中禅寺湖に沈んでしまう。その後、奇跡的に無傷の状態で引き上げられ、現在の場所に移された。

昭和44年、勝道上人開山1200年記念事業として五大明王堂が建設され、ここには不動明王、降三世明王、軍荼利明王、大威徳明王、金剛夜叉明王が安置されている。五大堂から望む中禅寺湖の景色は圧巻で、奥日光の雄大な自然に触れることができる観光名所として人気が高い。

日光山輪王寺
Nikko-zan Rinnoji Temple● 歴史
map | G-6〔所〕日光地域
〔問〕日光山輪王寺
〔tel〕0288-54-0531

三代将軍・家光公の廟所である大猷院は本殿・相の間・拝殿が国宝に指定された貴重な建造物。東照宮の美しさを超えない控え目な装飾美に、家康公に対する尊敬の念が感じられます。

さて、「観光」は光を観ると書きますが、日光の社寺を巡ると神様や仏様、偉大な先人たちが発する光を感じ取ることができます。光とは仏神や偉人たちのメッセージのようなもの。まっさらな心で光を受け止め、日光の社寺巡りを楽しんでほしいと思います。

FACE
41日光山輪王寺強飯式
Nikko-zan Rinnoji Temple Gohan-shiki (Ceremony of Prayer)

● 歴史 map | G-6

〔期〕毎年4月2日
〔所〕日光地域
〔問〕日光山輪王寺
〔tel〕0288-54-0531

山盛りの碗に食らいつく日光山の儀式

日光山に伝わる古儀「強飯式」は「日光責め」とも言われ、修験者役の強飯僧が3升の飯が入った碗を強飯頂戴人に差し出し、「1粒残さず食べろ」と責め立てる儀式。家運長久・商売繁盛などの御利益があるとされ、江戸時代には徳川将軍家の名代や全国の大名たちがこぞって「わが藩の名誉」として強飯式頂戴人に名を連ねた。

FACE
40日光山輪王寺延年の舞
Nikko-zan Rinnoji Temple Ennen-no-Mai (Dance Ceremony)

● 歴史 map | G-6

〔期〕毎年5月17日
〔所〕日光地域
〔問〕日光山輪王寺
〔tel〕0288-54-0531

慈覚大師・円仁が伝えた秘舞曲

栃木県に生まれた慈覚大師・円仁が唐から伝えたと言われる秘舞曲で、1160年余りの歴史と伝統を有する。天下泰平・国土安穩・延年長寿を願い、日光山の諸仏諸神に奉納される舞は、神仏習合の信仰を今に伝える行事の一つ。日光東照宮の例大祭にさがけて奉舞される。

FACE
46中禅寺湖畔ボートハウス
Lake Chuzenji Boat House

● 歴史 map | J-9
 [所] 日光地域
 [問] 栃木県立
 日光自然博物館
 [tel] 0288-55-0880

華やかなりしリゾートライフの面影

昭和22年、日光観光ホテル(現・中禅寺金谷ホテル)の付帯施設として建てられた旧金谷ボートハウスは、アメリカの水辺リゾート地の建物がモデルだった。湖と接する1階部分の進水口とボートを保管する艇庫、2階部分のオープンデッキが往時のリゾートムードを醸し出す。

現在の建物は、昭和20年代の国際避暑地の趣を伝えるべく、可能な限り当時の姿に復元したもので、中禅寺湖畔ボートハウスと名前を変え栃木県の休憩施設として活用されている。

館内には中禅寺湖に生息する淡水魚(剥製)の展示やフライフィッシングの歴史を伝えるコーナーのほか、実際に使用された和船やヨットなどを展示。合わせて、中禅寺湖畔にあるベルギー王国大使館別荘が所有していた手こぎボートも展示されている。

FACE
48英国大使館別荘記念公園
British Embassy Villa Memorial Park

● 歴史 map | K-10
 [所] 日光地域
 [問] 栃木県立
 日光自然博物館
 [tel] 0288-55-0880

最古の大使館別荘で英国文化を体験

日光を国際避暑地として広く知らしめた立役者が親日家として知られるイギリス人外交官アーネスト・サトウ(1843～1929)である。中禅寺湖を訪れ感銘を受けたサトウは湖畔に山荘を建て、トレッキングや植物採集を楽しんだ。

この山荘は後に自身の離日に際し後任の公使に譲り渡され、以後、増改築を重ねながら平成20年まで英国大使館別荘として使用された。中禅寺湖畔に現存する外交官別荘としては最も古い。

平成22年、老朽化などにより栃木県に譲渡され、足かけ6年をかけて整備が完了。平成28年夏に一般公開される運びとなった。

復元された建物内は「眺望・休憩ゾーン」「展示ゾーン」のほか、紅茶やデザートが楽しめる喫茶スペース(有料)を併設した「英国文化体験ゾーン」に分かれている。

FACE
45旧日光田母沢御用邸
Nikko Tamozawa Imperial Villa

● 歴史 map | F-7
 [所] 日光地域
 [問] 日光田母沢御用邸
 記念公園
 [tel] 0288-53-6767

皇室文化を今に伝える伝統建築

明治32年、嘉仁親王(後の大正天皇)のご静養の場として日光田母沢御用邸が造営された。当時、赤坂離宮などに使われていた旧紀州徳川家江戸中屋敷の一部を移築したほか、新たな建物を増築。昭和22年に廃止になるまで三代にわたる天皇・皇太子が利用した。

建物は江戸・明治・大正の3つの時代からなり、特に明治期に造営された御用邸の中では最大規模を誇り、現存する唯一の木造建築とされる。

御用邸の廃止後は博物館や宿泊・研修施設として使用されたが、建物に刻まれた技と伝統を後世に伝えるべく栃木県が再整備。最も規模が大きかった大正10年当時の姿を可能な限り忠実に復原し、平成12年に日光田母沢御用邸記念公園として蘇った。平成15年には「国の重要文化財」に、平成19年には「日本の歴史公園100選」に選定されている。

FACE
47イタリア大使館別荘記念公園
Italian Embassy Villa Memorial Park

● 歴史 map | K-10
 [所] 日光地域
 [問] 栃木県立
 日光自然博物館
 [tel] 0288-55-0880

日本の伝統建築とモダニズムの融合

昭和3年に建てられた旧イタリア大使館別荘は、平成9年まで歴代の大使が夏季別荘として使用していた。平成10年に栃木県がイタリア国から譲り受け、およそ2年の改修工事期間を経て、平成12年に「イタリア大使館別荘記念公園」として生まれ変わった。

設計者はチェコ出身の著名な建築家で外交官でもあるアントニン・レーモンド。内外装とも地場産の杉板張り、和洋折衷のスタイルが特徴。日本の伝統建築と西洋のモダニズムを融合させた建物は、歴史的建造物としても貴重だ。

また、周辺環境との調和にも重きが置かれ、建物は見事なまでに周辺の自然に溶け込んでいる。建物の南面、湖側に大開口部を設けたことで中禅寺湖と白根山を一望。ヨット競技やボート遊びに興じた外国人たちのリゾートライフの一端を垣間見ることができる。

歴史

FACE
44

金谷ホテル歴史館

国際避暑地・日光の面影を求めて



Kanaya Hotel History House

● 歴史 map | F-6
 [所] 日光地域
 [問] 金谷ホテル歴史館
 [tel] 0288-50-1873

西洋式リゾートホテル
発祥の地

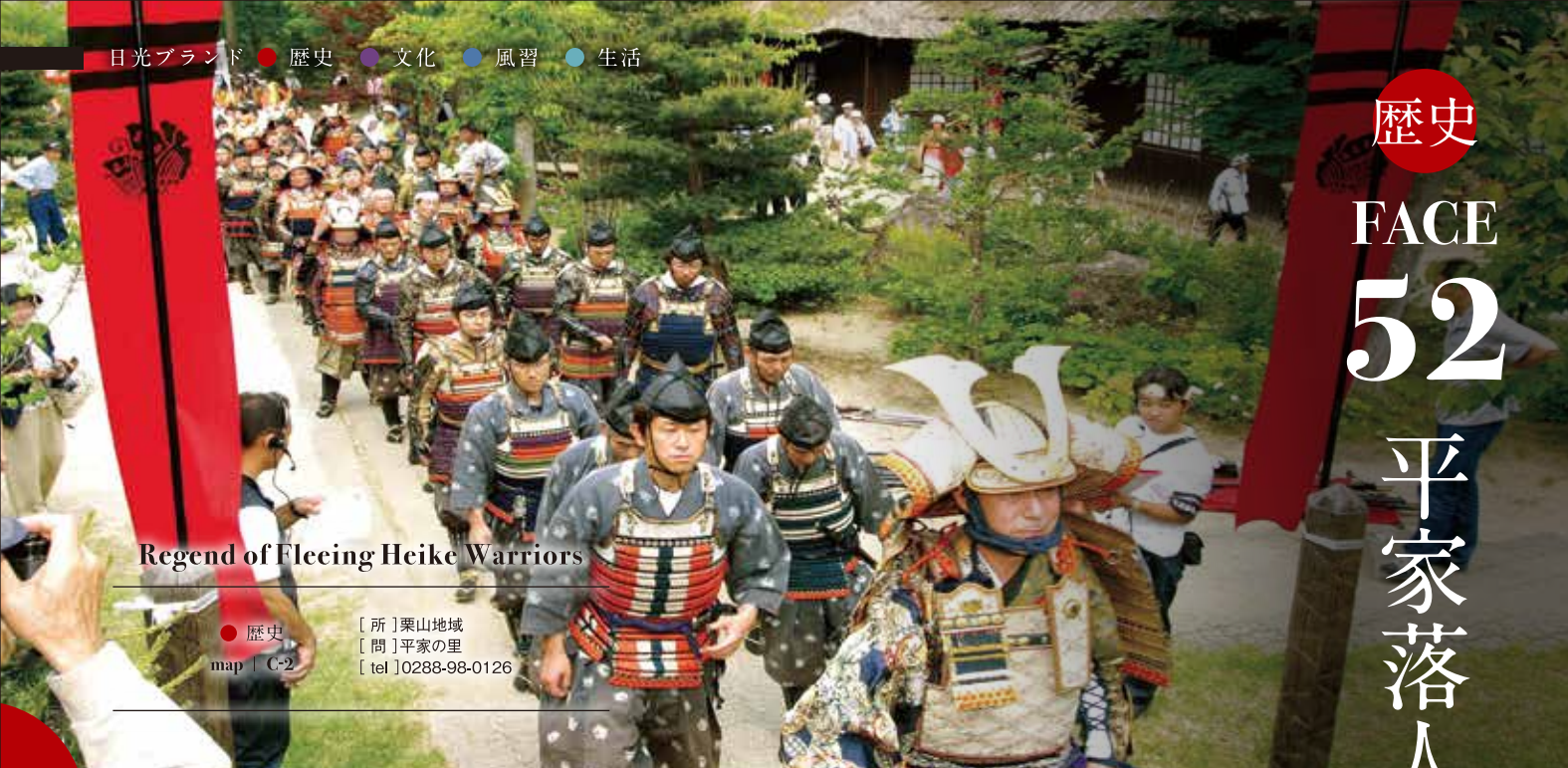
日本最古の西洋式リゾートホテルとして知られる金谷ホテルの原点は、明治6年に開業した「金谷カテジイン」である。

アメリカ人宣教師・ヘボン博士の進言により、創業者・金谷善一郎が自宅を改装してオープンした外国人専用の宿泊施設で、当時外国人たちは「Samurai House(侍屋敷)」と呼んでいた。

後にイギリス人旅行家のイザベラ・バードが滞在し、その詳細を自著『日本奥地旅行記』に記している。

以来140余年。侍屋敷は現在も同地に保存され、平成26年に国の登録有形文化財に指定。補強・修復工事を経て平成27年3月より、当時の文化や歴史を伝える「金谷ホテル歴史館」として一般公開が始まった。

武家屋敷の様式をそのまま残した建物は、釘を使わずに部材を組み合わせる「貫構造」と呼ばれる軸組工法や、礎石の上に柱を立てる「礎石工法」など、日本建築の伝統工法が随所に。当時の匠の技が垣間見られるなど、建築遺産としても価値が高い。



Regend of Fleeing Heike Warriors

● 歴史
map | C-2

〔所〕栗山地域
〔問〕平家の里
〔tel〕0288-98-0126

歴史

FACE

52

平家落人伝説

栗山地域に伝わる歴史伝説。
平家文化に思いを馳せる

文治元年（1185）の壇ノ浦の合戦で源氏に敗れた平家一門の生き残りが隠れ住んだ「落人伝説」が残る栗山地域。

後にその子孫によって発見された温泉は400年以上の歴史を有し、アルカリ性単純泉で無味透明・無味無臭の泉質は病後回復の療養や外傷後の療養に適するとされてきた。

平家落人の集落として発展した湯西川温泉郷には現在も共同浴場や露天風呂が点在し、日本の原風景ともいえるのどかな雰囲気醸し出している。

毎年6月に開催される「平家大祭」は、落人伝説が残る同温泉郷ならではの祭り、平家琵琶の演奏、雅楽など平家ゆかりの荘厳な催し物がずらり。

一番の見所は平家の武者や姫に扮した総勢200余名が、湯殿山神社から平家の里までの約2キロを練り歩く「平家絵巻行列」。まるで平安時代にタイムスリップしたかのような気分が味わえる。

文化

FACE

49

龍王祭

鬼怒川・川治温泉郷が
舞台の盛大な夏祭り

鬼怒川・川治温泉郷の一大イベント「龍王祭」は昭和44年から続く地域を代表する祭典の一つで、夏の風物詩として欠かせない。毎年7月下旬の3日間にわたって盛大に開催される。

祭りは鬼怒川・川治温泉郷の繁栄を祈願し、龍王峡の五龍王神社での神事（龍王太鼓の奉納）で幕を開ける。

本祭は鬼怒川温泉のくろがね橋周辺、川治温泉の川治ふれあい公園の2カ所に分かれ、特設ステージで鬼怒川囃子の演奏や万燈神輿の渡御のほか、趣向を凝らしたショーやイベントが開催される。

途中、盛大な打ち上げ花火が夜空を彩り、祭りを一層盛り上げる。出店も多数出店し、終始にぎやかだ。

見所は最近復活した女性だけが担ぐ女樽神輿。地元酒蔵の酒樽を使った神輿3基が練り歩く。女性の御輿は全国的にも珍しく、祭りに華を添える。

Ryuo Festival

● 文化
map | D-3

〔期〕毎年7月下旬
〔所〕藤原地域
〔問〕日光市観光協会
〔tel〕0288-22-1525

風土が育んだ暮らしの文化

FACE

50

日光和楽踊り

Nikko Waraku-odori (Dance Festival)



● 文化 map | B-4

〔期〕毎年8月
〔所〕日光地域
〔問〕古河電工
日光事務所
〔tel〕0288-54-0501

市民参加型の夏の風物詩

大正2年に大正天皇・皇后両陛下が古河電工日光事務所を行幸啓（ぎょうこうけい）されたことに端を発する。当時、重大な任務を終えた所員たちは、祝賀の席でその喜びを歌や踊りで表現した。それが日光和楽踊りの発祥とされている。現在では一般開放され、市民参加型の夏の一大イベントになっている。

FACE

51

日光の獅子舞

Nikko Shishimai (Lion Dance)



● 歴史 map | C-3

〔期〕毎年4月～通年
（各地区により
開催日は異なる）
〔所〕日光市全域
〔問〕日光市観光協会
〔tel〕0288-22-1525

県内最大の「獅子舞王国」

五穀豊穡や無病息災などを祈願する「獅子舞」は全国各地の伝統文化として受け継がれているが、北関東の二大流派の一つ文挟流は旧落合村（今市地域・落合地区）が発祥とされている。現在、日光市内には21の地区で獅子舞が行われ、特に栗山地域（旧栗山村）は9地区で継承されるなど、獅子舞が盛んな地である。

FACE

53

川俣の元服式

Kawamata Genpuku-shiki (Coming-of-age Ceremony)



● 風習
map | B-3

〔期〕毎年1月下旬
〔所〕栗山地域
〔問〕日光市観光協会
〔tel〕0288-22-1525

500年以上続く地域の伝統行事

男子が数え年二十歳に達すると、血縁関係の薄くなっている親族の中から成人後の後見人を選び、親分・子分の関係を結ぶ元服式。その起源は室町時代までさかのぼり、以来500年以上続く地域の伝統行事として継承されている。

FACE

54

栗山地域の石焼き

Kuriyama Ishiyaki (BBQ on Heated-rocks)



● 文化
map | B-3

〔期〕4月上旬～10月下旬
〔所〕栗山地域
〔問〕日光市観光協会
〔tel〕0288-22-1525

野趣溢れる伝統的な食の行事

「石焼き」とは高温に熱した石の上に肉や魚、野菜などを載せて調理する伝統料理で、栗山地域では伝統的な食文化として地域住民の間で受け継がれてきた。地域ごとに年数回開催されている。

FACE

55

大沢ひまわり隊

Osawa Himawari-tai (Safety Patrol Volunteers)



● 生活
map | D-4

〔期〕通年
〔所〕今市地域
〔問〕日光市立大沢小学校内事務局
〔tel〕0288-26-0350

児童の登下校の安全を守るために

児童の登下校の安全確保のために保護者や教職員、地域ボランティアなどで組織された「大沢ひまわり隊」。児童生徒への声かけやあいさつ運動、不審者の有無の確認、登下校時の見守り活動などを行っている。

歴史

FACE
58 足尾銅山

日本の近代産業を支えた大鉱脈

Ashio Copper Mine

● 歴史
map | A-5
[所] 足尾地域
[問] 日光市観光協会
[tel] 0288-22-1525

歴史

文化

FACE
59

足尾源流の森再生プロジェクト

Ashio Tree-planting Project

● 環境 map | A-5
[期] 通年
[所] 足尾地域
[問] NPO法人
足尾に緑を育てる会
[tel] 0288-93-2180

足尾の歴史と教訓を未来につなぐ

かつて「日本一の鉱都」と呼ばれ国内産業を支えてきた足尾銅山は、銅の精錬過程で排出される鉱毒により環境破壊と環境汚染を引き起こした。

平成8年、足尾地区（旧足尾町）の有志たちを中心に発足した「NPO法人 足尾に緑を育てる会」は、「足尾の山に100万本の木を植えよう!」を合言葉に、荒廃した渡良瀬川の源流の森を再生すべく息の長い緑化活動を展開。毎年4月の「春の植樹デー」、7月の「夏の草刈デー」、毎月開催される「作業デー」など地道な植樹活動を続けている。

こうした取り組みが評価され、同法人の「渡良瀬川源流の森再生プロジェクト 一足尾銅山の荒廃地に植樹一」が、公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟が実施する「第3回 プロジェクト未来遺産」に認定。全国各地の10のプロジェクトの一つに選ばれた。

隆盛を極めた
日本一の鉱都

江戸時代に鉱床が発見され、幕府直轄の鉱山として採掘が始まった足尾銅山は、後に民営化され、昭和48年の閉山に至るまでおよそ400年間続く。最盛期には年間1500トンもの銅を産出し、「日本一の鉱都」と呼ばれ大いに栄えた。

明治時代に入ると政府の富国強兵政策を背景に鉱山開発に拍車がかかり、製錬事業の拡大によって広範囲な環境破壊と環境汚染を引き起こし

たが、後に鉱廃水の浄化システムや煙害防除技術確立。特に「古河式自熔炉」と呼ばれる煙害防除技術は現在、環境負荷低減のために世界中で導入されている。

銅山閉山後は坑内の一部が開放され、足尾銅山観光として整備。全長700メートルの薄暗い坑道内をトロッキ電車に乗りながら採掘の様子が学べる施設に生まれ変わった。

平成12年、環境について学べる足尾環境学習センターが銅親水公園内にオープン。環境学習のまちとして注目を集めている。

FACE
56

小杉放菴記念日光美術館

Kosugi Hoan Museum of Art, Nikko

日光出身の画家の才能に触れる

日光二荒山神社の神官の子として生まれた小杉放菴（1881～1964）は、同じ日光で作品制作を続けていた水戸生まれの洋画家・五百城文哉（いおぎぶんさい）の内弟子となり、洋画をはじめ日本画、漫画、挿絵など幅広いジャンルで数多くの作品を残した。

平成9年、二社一寺や神橋にほど近い日光市山内に開館した同美術館は、「自然へのいつくしみ」を基本テーマに、放菴の日本画や油彩画、水彩画などの作品を中心に展示。明治・大正から昭和にかけて活躍した放菴の画業を幅広く紹介するとともに、多彩な才能を開花させた近代の日光における文化的側面についての考察や、日本の近代美術史上における作家性や影響関係などについても研究している。

放菴の代表作に東京大学安田講堂に描かれた壁画「泉」があり、同美術館にはその壁画制作のために描いた作品を常設展示している。

● 文化
map | G-6
[所] 日光地域
[問] 小杉放菴記念日光美術館
[tel] 0288-50-1200FACE
57

H.C.栃木日光アイスバックス

H.C. TOCHIGI NIKKO ICEBUCKS

地域発のアイスホッケー文化

H.C.栃木日光アイスバックスは平成11年、日光市をホームタウンに日本初のプロアイスホッケークラブチームとして発足した。その前身は、大正14年に創部し73年間の歴史に幕を閉じた「古河電工アイスホッケー部」で、地元人にも馴染みが深い。

発足後、多くの地元ファンやスポンサーに支えられ、日本のアイスホッケー界のトップリーグにあたるアジアリーグ（日本、中国、韓国、ロシアの4カ国）に参戦。国内はもとより海外に股を掛けた活動を続けている。

このアジアリーグに参戦するチームの多くは企業が母体の実業団チームだが、アイスバックスだけは親企業を持たない市民クラブチームである。

「地域」を念頭に活動するアイスバックスには熱狂的なファンが多く、アジアリーグにおいては最大の観客動員数を誇るなど、地域や地元ファンと一体となった活動が目を引く。

● 文化
map | G-6
[期] 9月～3月
[所] 日光地域
[問] H.C.栃木日光アイスバックス
[tel] 0288-53-5166

環境

FACE
64今市の杉線香
Imaichi Cedar Incense

江戸時代より受け継がれる伝統産業

元禄元年(1864)、越後出身の安達繁七が杉の葉線香を製造したのが始まりとされる。

日光の多雨な気候は杉の生育に適し、古くから人工林として杉が植林されていたことから杉線香の原材料は豊富にあった。加えて水車の設置に適した川が多く、年間を通して水量も一定だったことから原材料の加工にも適していた。以来、今市地域は日本有数の杉線香の産地である。

杉の葉を原材料に水車で挽いた粉でつくった線香は、品のある杉独特の香りが特徴で、成形後にじっくりと乾燥させた線香は燃え方も美しい。江戸時代より受け継がれてきた伝統産業は地域ブランドの一つになった。

地域の文化継承のために整備された杉並木公園(日光市瀬川)には、杉線香の生産日本一を象徴する大きな水車が整備されている。

● 技術

[所] 今市地域
[問] 今市線香組合
[tel] 0288-21-0360

FACE
65

足尾焼

Ashio-yaki (Ceramics)



普段使いで楽しむ個性豊かな焼き物

地域の特徴を生かした地場産業として注目されている足尾焼。足尾地域には数軒の窯元があり、それぞれにコーヒーカップや湯飲み、皿や花器など独自の陶芸作品を手がけるほか、陶芸教室を開催している。素朴な風合いが魅力で、普段使いだけでなく記念品や贈答品としても人気が高い。

● 技術

[所] 足尾地域
[問] 日光市観光協会
[tel] 0288-22-1525

FACE
61

日光下駄

Nikko Geta (Wooden Clogs)



神官や僧侶の履き物がルーツ

江戸時代、日光の神官や僧侶などは御免下駄(ごめんげた)と呼ばれる特製の下駄を正式な履き物として用いていた。これを実用的に改良したものが現在の日光下駄で、明治時代半ばごろから広く一般に普及する。台木と竹の皮で編んだ草履が一つになった履き物は、夏涼しく、冬温かいなど機能性に富んでいる。

● 技術

[所] 日光地域
[問] 日光伝統工芸組合協議会
[tel] 0288-55-0144

FACE
62

郷土玩具 日光茶道具

Local Art Work: Nikko Tea Ceremony Set



職人の余技から生まれた郷土玩具

日光彫の木地をつくる木地師たちの余技としてつくられた鑑賞用のミニチュア茶道具。サクラ・カリン・ケヤキなどの素材を道具に合わせて使い分け、茶碗、茶托(ちゃたく)、茶釜、茶筒、急須、柄杓(ひしゃく)、茶こぼしなどの茶道具が器とともに一式になっている。民芸品として観光客に人気が高い。

● 技術

[所] 日光地域
[問] 日光彫協同組合
[tel] 0288-50-1171

FACE
63

今市の挽物

Imaichi Turned Products



木目の美しさが魅力の伝統工芸品

江戸時代より伝わる今市地域の伝統工芸品は、木目の美しさや天然木の色合いが魅力。クワ・サクラ・ケヤキトチなどをロクロを用いてくり抜き、湯飲みや急須、菓子鉢や花器を生産している。暮らしの道具として使い込むほどに手に馴染み、木工品ならではの経年変化が楽しめる。

● 技術

[所] 今市地域
[問] 今市ロクロ会
[tel] 0288-21-0781

技術

FACE

60

「日光彫」

地域に受け継がれる伝統工芸



Nikko-bori (Wood Carving)

● 技術

[所] 日光地域
[問] 日光彫協同組合
[tel] 0288-50-1171

その歴史は古く、日光東照宮の造替工事の折、全国から招集された名匠たちが余技としてつくったのが始まりとされています。工事完了後も名匠たちの技術が受け継がれ、後に二社一寺の参詣者などへの土産品としてつくられることで、日光彫の原型ができあがったと考えられています。

特徴的なのは「ヒツカキ」と呼ばれる独特の三角刀を用いること。彫りの深い男性的な曲線や、髪の毛のように細い繊細な線表現が日光彫最大の魅力です。

日光彫は、木の素地に植物等をモチーフにした紋様彫刻が施され、漆などによる塗り、堆朱や研ぎ出しなどによって表面仕上げされた漆器技法製品の総称です。

日光東照宮造替に
端を発する彫刻技法

日光彫協同組合理事長
村上隆大さん

日光彫の製造・販売を行う(有)村上豊八商店の三代目。平成22年に同組合理事長に就任。日光彫の普及啓発に努める。

FACE

68

日光の手打ちそば

Nikko Handmade Soba (Buckwheat Noodles)



進化する「そばのまち日光」

全国有数のそばの産地である栃木県は、県南・県北に関わらずそれぞれの地域でこだわりのそばを生産。地域おこしに一役買っている。

中でも日光市は作付面積、収穫量ともに県内第1位を誇る(平成26年)。味、香りとも上質のそばが収穫できる理由は、山の雪解け水に源を発する豊富かつ清冽な水と、昼と夜の寒暖の差がそばの実の風味や甘味を引き出すから。

市内にはこだわりの手打ちそばを提供する名店が点在し、人口当たりのそば店舗数は日本一だ。

県は日光の地域資源である「そば」と「水」に着目。名所旧跡をめぐりながら香り高いそばを味わえる食の街道「日光例幣使そば街道」を立ち上げ、交流人口の拡大を図ってきた。平成20年には市内100店以上のそば店が結集して「日光手打ちそばの会」を設立。日光ブランドの一つとして地域を盛り上げている。

FACE

70

日光の湯波

Nikko Yuba (Bean-curd Skin)



1000年以上の歴史を有する伝統食

仏教の伝播とともに京都から伝わったとされる日光の湯波。その歴史は古く奈良・平安時代にまでさかのぼる。日光開山の祖・勝道上人の時代、山岳修験道が盛んな日光には数百の坊があり、1万数千人の僧侶が居住していたとされる。

彼らの日々の精進食として湯波が製造され、また、二社一寺の供物や皇室に献上されるなど、昔から湯波は郷土を代表する食の一つだった。

ちなみに京都は「湯葉」、日光は「湯波」と書く。読み方は同じだが表記が違うのは製法の違いから。加熱した豆乳の膜を二重で引き上げたものが「京都の湯葉」で、膜を二重にして引き上げたものが「日光の湯波」。日光の湯波はボリュームがあって濃厚。主役になれる味わいである。

最近は懷石料理だけでなく湯波を食材とした新メニューが続々と開発され、食のバリエーションが豊富になった。日光の伝統食は時代に合わせて進化している。

FACE

67

日光の名水

Nikko Water



涵養されたまろやかな味わい

日光連山をはじめ2000メートル級の山々が連なる日光は、日光国立公園を中心とした広大な森林地帯が広がり、男鹿川・湯西川・鬼怒川・大谷川・渡良瀬川の5つの源流域を擁している。

山の雪解け水は長い時間をかけて地中深くまで浸透し、伏流水となって流域の暮らしや産業を支えてきた。

例えば、涵養されたまろやかな水は、味噌や醤油、日本酒や漬け物など醸造系の地場産業には欠かせず、たまり漬や地酒など水の質が味わいを左右する日光名物を生み出してきた。

また、豆腐製造やもやし栽培など豊富な水を必要とする食品工場にとっても日光の名水は注目度が高く、すべての食のルーツとして地域に数多くの恵みをもたらしている。

FACE

69

日光の天然氷

Nikko Natural Ice



ふわっとした食感は天然の証

かつては全国に100軒近くの氷室があり、山あいの湖や池などを利用して天然氷を生産していた。冷凍冷蔵庫の普及によってその数は激減し、現在国内には数軒の氷室が残っているが、うち3軒が日光市内にあり、昔と変わらない手法で天然氷を生産している。

厳冬の1～2月、自然の中でおよそ2週間かけてつくり上げた天然氷は氷室内のおがくずの中に保存され、夏まで出荷を待つ。

日光の名水でつくられた天然氷は、きめが細かくミネラル分を豊富に含んでいる。冷凍庫で凍らせた水よりも溶けにくく、後味にほんのりとした甘味がある。かき氷にしたときのふわっとした食感が身の上だ。

市内には日光の天然氷を使ったかき氷の店が点在し、夏季だけでなく年間を通して提供する店もあるほど。

食

FACE

66

日光老舗名店会

日光ブランド食分野特選5選



Special Five Selections of Nikko Brand Food Category



特選日光ブランド

「日光老舗名店会」店舗一覧

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 01 生ゆば料理 ゆば亭ますだや | 10 日光羊羹 吉田屋羊羹本舗 |
| 02 木の芽さんしょ 柏崎商店 | 11 日光羊羹 三ツ山羊羹本舗 |
| 03 元祖日光ゆば料理 恵比寿家 | 12 日光祊り羊羹 ひしや |
| 04 本格懷石湯波料理 与夢呂 | 13 チーズケーキ 明治の館 |
| 05 日光名物御膳湯波 海老屋長造 | 14 金谷ホテル伝統のパン |
| 06 日光湯波 ふじや | 金谷ホテルベーカリー |
| 07 元祖日光饅頭 湯沢屋 | 15 日光羊羹 綿半 |
| 08 志そまきとうがらし 落合商店 | 16 湯波料理 高井家 |
| 09 日光羊羹 鬼平の羊羹本舗 | 17 日光甚五郎煎餅 石田屋 |

17の老舗・名店が日光ブランドを継承

世界遺産「日光の社寺」に端を発し、日光独自の食文化を支えてきた老舗・名店によって組織された有志の会。平成18年の市町村合併により全国で3番目に広い新生・日光市が誕生したが、同会はそれに先駆けて平成17年に発足。地元である日光東西門前町の歴史と伝統を守り、魅力を発

信するため、いち早く地域ブランドづくりに乗り出した。

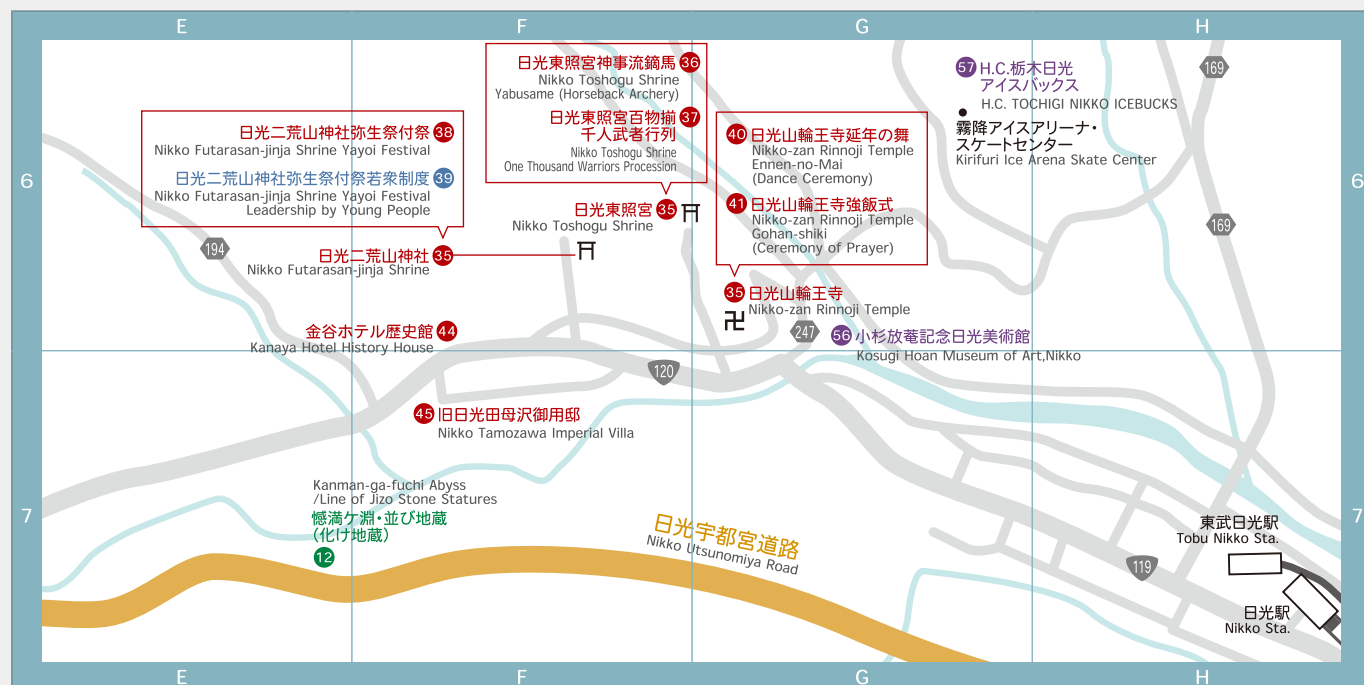
日光地域で三世代、30年以上にわたってのれんを守り、日光湯波・日光羊羹・日光唐辛子などに代表される地域ブランドを築き上げてきた17店舗が日光の食文化を盛り上げる。

威風堂々とした朱色のロゴマークは、まちの中心に位置し日光の聖域と門前町をつなぐ世界遺産「神橋」がモチーフ。



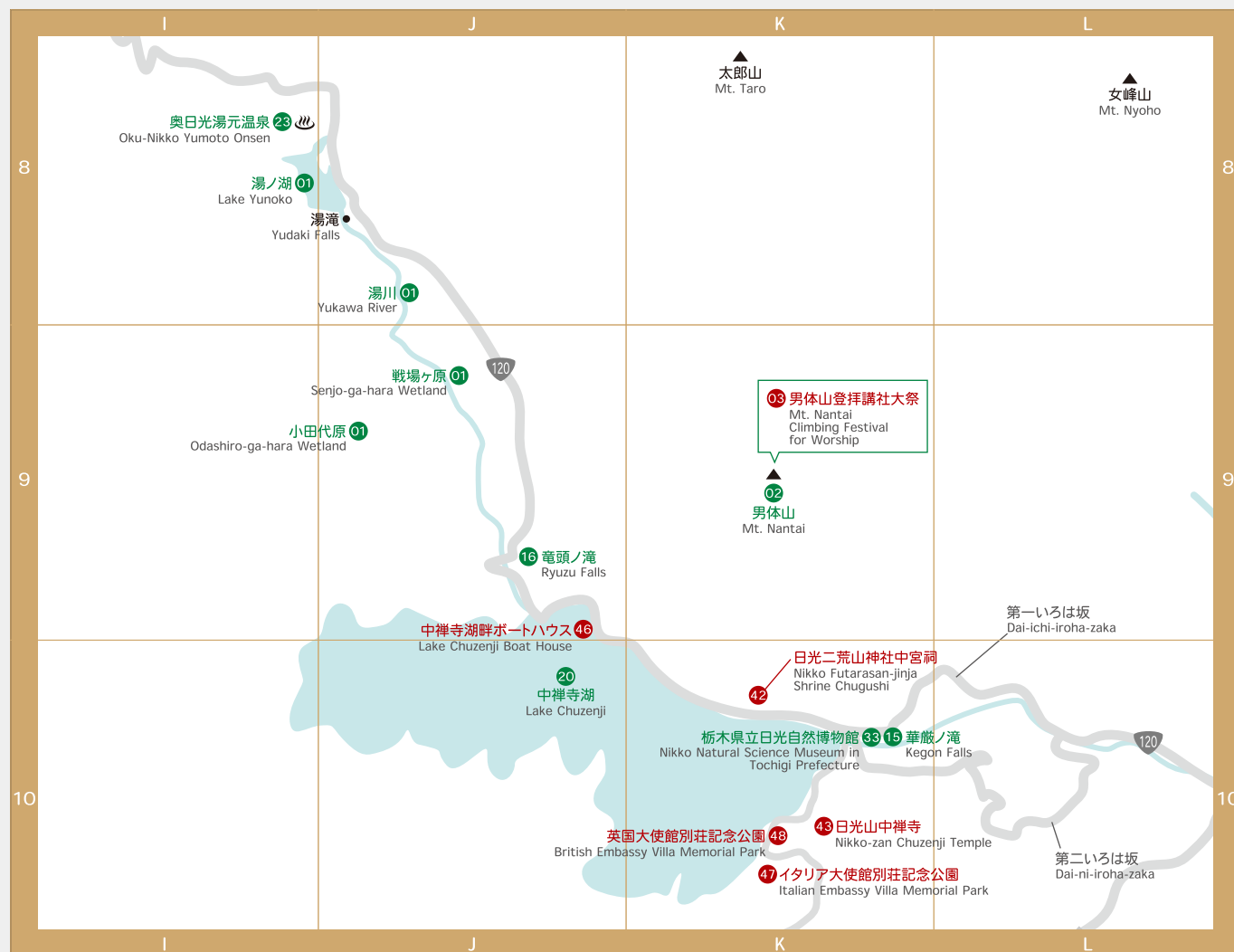
中心部エリア | 拡大図

To central area Expansion map



奥日光エリア | 拡大図

Oku-Nikko Area Expansion Map



区分 division

- | | | |
|------------------|--------------|--------------|
| ● 自然 Nature | ● 歴史 History | ● 文化 Culture |
| ● 技術 Technique | ● 風習 Custom | ● 生活 Life |
| ● 環境 Environment | | |

日光ブランドMAP

N i k k o B r a n d



日光ブランド一覧

ナンバー number	区分 division	登録名称	name	ページ page	マップ map
01	●	ラムサール条約登録湿地「奥日光の湿原」	“Wetlands in Oku-Nikko” Registered under the Ramsar Convention	6	
	●	〈小田代原〉	<Odashiro-ga-hara Wetland>	7	J-9
	●	〈戦場ヶ原〉	<Senjo-ga-hara Wetland>	7	J-9
	●	〈湯ノ湖〉	<Lake Yunoko>	7	I-8
	●	〈湯川(湯滝含む)〉	<Yukawa River (Including Yudaki Falls)>	7	J-8
02	●	男体山	Mt. Nantai	8	K-9
	●	女峰山	Mt. Nyoho	8	B-3
	●	太郎山	Mt. Taro	8	B-3
03	●	男体山登拝講社大祭	Mt. Nantai Climbing Festival for Worship	9	K-9
04	●	白根山	Mt. Shirane	9	A-4
05	●	皇海山	Mt. Sukai	9	A-4
06	●	庚申山	Mt. Koshin	9	A-5
07	●	龍王峡	Ryuokyo Gorge	10	D-3
08	●	鬼怒川	Kinugawa River	11	D-3
09	●	川俣瀬戸合峡	Kawamata Seto-aikyo Gorge	11	B-3
10	●	楯岩	Tateiwa Rock	11	D-3
11	●	大谷川	Daiya-gawa River	10	D-4
12	●	憾満ヶ淵・並び地藏(化け地藏)	Kanman-ga-fuchi Abyss/Line of Jizo Stone Statues	10	E-7
13	●	男鹿川	Ojika-gawa River	11	D-2
14	●	渡良瀬川	Watarase-gawa River	11	A-5
15	●	華巖ノ滝	Kegon Falls	12	K-10
16	●	竜頭ノ滝	Ryuzu Falls	12	J-9
17	●	裏見ノ滝	Urami Falls	12	B-4
18	●	霧降ノ滝	Kirifuri Falls	12	C-4
19	●	鬼怒沼	Kinunuma Wetland	13	A-3
20	●	中禅寺湖	Lake Chuzenji	13	J-10
21	●	鬼怒川上流ダム群	Kinugawa River Upstream Dams	13	C-2
22	●	稲荷川砂防堰堤群	Inari River Erosion Control Dams	13	C-4
23	●	奥日光湯元温泉	Oku-Nikko Yumoto Onsen	14	I-8
24	●	鬼怒川温泉	Kinugawa Onsen	15	D-3
25	●	川治温泉	Kawaji Onsen	15	D-3
26	●	川俣温泉	Kawamata Onsen	15	B-3
27	●	川俣温泉の間欠泉	Kawamata Onsen Geyser	15	B-3
28	●	奥鬼怒温泉	Oku-Kinu Onsen	15	A-3
29	●	湯西川温泉	Yunishigawa Onsen	15	C-2
30	●	霧降高原キスゲ平	Kirifuri Highland Kisuge-daira Hiking Park	16	C-3
31	●	大笹牧場	Ozasa Ranch	16	C-3
32	●	シモツケコウホネ群生地	Shimotsuke Nuphar Japonica Colony	16	D-5
33	●	栃木県立日光自然博物館	Nikko Natural Science Museum in Tochigi Prefecture	16	K-10
34	●	日光杉並木街道	Nikko Cedar Avenue	17	C-4

発行日 平成29年3月31日
発行元 日光ブランド協議会(日光市役所 総合政策部 秘書広報課 シティプロモーション推進室内)
〒321-1292 栃木県日光市今市本町1番地 TEL.0288-21-5135 FAX.0288-21-5109

区分 division ● 自然 Nature ● 歴史 History ● 文化 Culture ● 技術 Technique ● 風習 Custom ● 生活 Life ● 環境 Environment ● 食 Foods

ナンバー number	区分 division	登録名称	name	ページ page	マップ map
35	●	世界遺産日光の社寺	World Heritage Shrines and Temples of Nikko		
	●	〈日光東照宮〉	<Nikko Toshogu Shrine>	18	F-6
	●	〈日光二荒山神社〉	<Nikko Futarasan-jinja Shrine>	19	F-6
	●	〈日光山輪王寺〉	<Nikko-zan Rinnoji Temple>	20	G-6
36	●	日光東照宮神事流鏑馬	Nikko Toshogu Shrine Yabusame (Horseback Archery)	18	F-6
37	●	日光東照宮百物揃千人武者行列	Nikko Toshogu Shrine One Thousand Warriors Procession	18	F-6
38	●	日光二荒山神社弥生祭付祭	Nikko Futarasan-jinja Shrine Yayoi Festival	19	F-6
39	●	日光二荒山神社弥生祭付祭若衆制度	Nikko Futarasan-jinja Shrine Yayoi Festival Leadership by Young People	19	F-6
40	●	日光山輪王寺延年の舞	Nikko-zan Rinnoji Temple Ennen-no-Mai (Dance Ceremony)	20	G-6
41	●	日光山輪王寺強飯式	Nikko-zan Rinnoji Temple Gohan-shiki (Ceremony of Prayer)	20	G-6
42	●	日光二荒山神社中宮祠	Nikko Futarasan-jinja Shrine Chugushi	21	K-10
43	●	日光山中禅寺	Nikko-zan Chuzenji Temple	21	K-10
44	●	金谷ホテル歴史館	Kanaya Hotel History House	22	F-6
45	●	旧日光田母沢御用邸	Nikko Tamozawa Imperial Villa	23	F-7
46	●	中禅寺湖畔ボートハウス	Lake Chuzenji Boat House	23	J-9
47	●	イタリア大使館別荘記念公園	Italian Embassy Villa Memorial Park	23	K-10
48	●	英国大使館別荘記念公園	British Embassy Villa Memorial Park	23	K-10
49	●	龍王祭	Ryuo Festival	24	D-3
50	●	日光和楽踊り	Nikko Waraku-odori (Dance Festival)	24	B-4
51	●	日光の獅子舞	Nikko Shishimai (Lion Dance)	24	C-3
52	●	平家落人伝説	Regend of Fleeing Heike Warriors	25	C-2
53	●	川俣の元服式	Kawamata Genpuku-shiki (Coming-of-age Ceremony)	25	B-3
54	●	栗山地域の石焼き	Kuriyama Ishiyaki (BBQ on Heated Rocks)	25	B-3
55	●	大沢ひまわり隊	Osawa Himawari-tai (Safety Patrol Volunteers)	25	D-4
56	●	小杉放菴記念日光美術館	Kosugi Hoan Museum of Art, Nikko	26	G-6
57	●	H.C.栃木日光アイスバックス	H.C. TOCHIGI NIKKO ICEBUCKS	26	G-6
58	●	足尾銅山	Ashio Copper Mine	27	A-5
59	●	足尾源流の森再生プロジェクト	Ashio Tree-planting Project	27	A-5
60	●	日光彫	Nikko-bori (Wood Carving)	28	
61	●	日光下駄	Nikko Geta (Wooden Clogs)	29	
62	●	郷土玩具 日光茶道具	Local Art Work: Nikko Tea Ceremony Set	29	
63	●	今市の挽物	Imaichi Turned Products	29	
64	●	今市の杉線香	Imaichi Cedar Incense	29	
65	●	足尾焼	Ashio-yaki (Ceramics)	29	
	●	日光ブランド食分野 特選5分野	Special Five Selections of Nikko Brand Food Category		
66	●	〈日光老舗名店会〉	Association of Long and Well-Established Stores in Nikko	30	
67	●	〈日光の名水〉	Nikko Water	31	
68	●	〈日光の手打ちそば〉	Nikko Handmade Soba (Buckwheat Noodles)	31	
69	●	〈日光の天然氷〉	Nikko Natural Ice	31	
70	●	〈日光の湯波〉	Nikko Yuba (Bean-curd Skin)	31	

日光ブランド認定制度 http://www.city.nikko.lg.jp/hisho/gyousei/shisei/nikko_brand/ninntei.html



歴史・文化

History & Culture

Nikko's shrines and temples boast a long history

A sacred place for studying Shinto and Buddhism, started by one monk

Nikko is well known as a "holy place of Shinto-Buddhism syncretism." Its history as a place of syncretism began with the monk Shodo Shonin (A.D. 735–817) in Mt. Nantai.

Seeking a place of training in Mountain Buddhism, Shodo Shonin, born in Shimotsuke Province (current Moka City in Tochigi Prefecture) built the Shihonryuji Temple on the north

shore of the Daiya-gawa River. He then directed his attention to the summit of Mt. Nantai to worship the mountain god and perfect his faith.

He faced extreme difficulties in this task but attained his wish, building a small shrine on the mountain's summit. He then went on to establish a shrine on the shores of Lake Chuzenji.

Later, Nikko began to be worshipped as the land where gods and Buddha dwell, contributing to the area's long history, which stretches back more than 1,250 years.



Shodo Shonin

Nikko water create famous food: The food culture of Nikko, land of waters



Nikko Water

The sacred land of Nikko features a traditional food known as "Nikko Yuba" that has more than a thousand years of history. Originating in Kyoto along with Buddhism, it became a daily staple by monks living in Nikko in the time of Shodo Shonin, the

Construction of the Nikko Toshogu Shrine and registration as a World Heritage Site

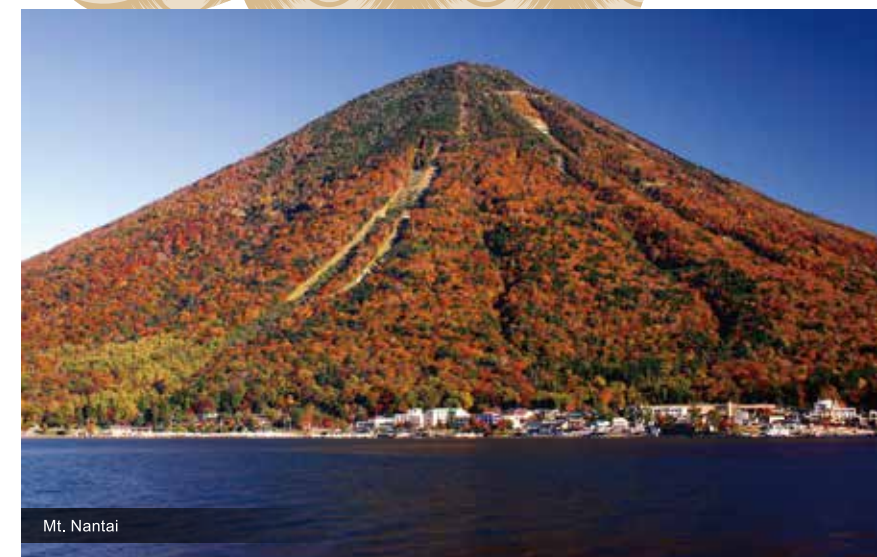
Many temples and shrines were built in Nikko during the Edo Period, making the town a prosperous cultural and economic center. This commenced with the creation of the Tokugawa shogunate in Edo, headed by Tokugawa Ieyasu as the first shogun. With Nikko positioned directly to the north of Edo Castle, Ieyasu regarded it as a central axis connecting Edo with Polaris. In his dying words, he stated, "I want a small shrine built in Nikko where I might be revered and be the god that keeps the peace throughout the land."

Later, the second shogun, Hidetada, built the Toshosha Shrine (current Nikko Toshogu Shrine), which was then rebuilt by the third shogun, Iemitsu, as the stunning shrine that survived to the present day.



Nikko-zan Rinnoji Temple

In 1999, the Nikko Toshogu Shrine, Nikko-zan Rinnoji Temple, and Nikko Futarasan-jinja Shrine, along with



Mt. Nantai

other shrines and temples, were registered as the "Shrines and Temples of Nikko" World Heritage Site. This accolade gave Nikko even more renown and boosted its draw as a global tourist destination.

Nikko, an international summer resort beloved of diplomats

Soon after the Meiji Restoration, British diplomat Sir Ernest Satow (1843–1929) visited Nikko and published guides for tourists detailing Nikko's attractions. Previously unknown to foreigners, the town quickly became well known, and later, summer homes that allowed

ambassadors and other foreigners to escape the summer heat were built along the shores of Lake Chuzenji.

While staying in Nikko, these foreigners played yachting and boat games and enjoyed fly fishing and hunting, creating a European-style resort culture. This evolution led Nikko to thrive as an international summer destination, becoming the first such resort in Japan.



Italian Embassy Villa Memorial Park

食

Food

Traditional food handed down over a millennium



pioneer of Nikko.

Recent years have seen restaurants spring up around the town, which specialize in Yuba cooking as a traditional food, and the health craze has focused on soy food products because of their high nutritional value.



Nikko Yuba (Bean-curd Skin)

The "Nikko Water" has a tremendous impact on Yuba's taste. Snowmelt waters flow from the mountains of Nikko to seep deep into the earth over long periods before reappearing from underground streams with a rich, smooth taste. It is no exaggeration to say that the unique character of this water created Nikko's food culture.

Nikko is also known as one of Japan's premier producers of soba noodles. "Nikko Handmade Soba" has become a regional brand in itself and has played a role in the town's revitalization. Once again, the unique waters of Nikko play a pivotal role in determining the taste of the town's

noodles, as do the different temperatures in the afternoon and the night. Nikko's unique natural surroundings bring out a sweetness that enhances the rich flavor of soba noodles.

Nikko's natural waters are well known, and the natural ice, rich in minute minerals, melts slower than ice made in freezers and also carries a mellow sweet aftertaste. Its fluffy texture is excellent when used in shaved ice.



Nikko Handmade Soba (Buckwheat Noodles)

自然

Nature

Abundant natural surroundings provide a treasure trove of rare flora and fauna

Some of the 100 Famous Japanese Mountains the majestic Nikko mountain range

For centuries, Nikko was a place of mountain worship. Of the string of famous 2000-plus-meter-tall peaks making up the Nikko mountain range, Mt. Nantai (2,486 m), Mt. Nyoho (2,483 m), and Mt. Taro (2,368 m) are together known as the “Nikko Sanzan” or the “Three Mountains of Nikko.”

Mt. Nantai is considered one of the 100 Famous Japanese Mountains and has long been a symbol of Nikko itself since it was an object of ancient worship. A steady string of mountain



climbers can be seen during the climbing season heading for the shrine at the mountain's summit.

Nikko features other mountains included in the list of the 100 Famous Japanese Mountains. Mt. Nikko-Shirane (2,578 m), located on the prefectural border, is the highest peak in the north of the Kanto region. Mt. Oku-Shirane is the primary peak

in this group of mountains, which are collectively called Mt. Nikko-Shirane. The area is surrounded by the Goshiki-numa cluster of lakes, Lake Yunoko, and the Senjo-ga-hara Wetland, as well as other natural sites that contribute to its splendid glaucidium and other beautiful flora.

Originally a site of mountain worship, the main peak of the Ashio Mountains, Mt. Sukai (2,144 m), is another one of the 100 Famous Japanese Mountains. Many of the area's rugged mountains remain unexplored. Today, the area's peaks are also the origin of the famous “Skyberry” brand of strawberries from Tochigi Prefecture.

Five water sources and famous waterfalls

Nikko has five primary water sources that flow from the 2,000-meter-high mountains, namely, the Ojika-gawa River, Yunishigawa River, Kinugawa River, Daiya-gawa River, and Watarase-gawa River. These rivers have contributed to the livelihoods of local residents since ancient times. The natural beauty of river valleys such as the Ryuokyo and Seto-aikyo Gorges along the Kinugawa River draw many tourists from across the globe.

Nikko is often called a “water town” given its many waterfalls, which are collectively known as the “48 Waterfalls of Nikko.” Representative of these waterfalls is the Kegon Falls, one of the three most famous waterfalls in Japan. At a height of around 97 meters and a width of 7 meters, its volume and height make an abiding impact on visitors.

Nikko has many other waterfalls both large and small. The Ryuzu Falls is well known for its lovely autumn colors. The Urami Falls was once visited by the poet Matsuo Basho and inspired some of his works. The mystical Kirifuri Falls descend like a fine mist.



For example, “Nikko-bori (Wood Carving)” started as hobby sculptures carved by sculptors gathered at Nikko from across Japan to worship and are today highly regarded by foreigners as a traditional crafts representative of Nikko. Their primary trait is the curve drawn through proprietary methods known as “hikkaki,” and people are attracted to the dignity of the pieces, which call to mind the architecture of local temples and shrines. Pieces that



World-renowned natural beauty. A registered Ramsar site



Due to their global importance, the “Oku-Nikko Wetlands” were registered as a Ramsar site during the 9th International Symposium for the Ramsar Convention in 2005. A total of 260.41 hectares were registered, including Lake Yunoko, the Yukawa River, Senjo-ga-hara, and Odashiro-ga-hara wetlands.

At 1,400 meters above sea level, Senjo-ga-hara has about 400 hectares of wetlands that are home to more than 350 types of rare mountain plants. Odashiro-ga-hara to the west is a grassland area of around 2 square kilometers surrounded by the Mongolian oak forest. These areas feature diverse plant life, native to this intriguing contrasting proximity of wetlands and grasslands.

The area is also a haven for wild wetland birds, which draw many hikers and birdwatchers in peak season.

Natural hot springs rising from the earth. A natural bounty soothing to both body and soul

Mountains and rivers, the Nikko area also boasts plentiful hot springs throughout.

The “Oku-Nikko Yumoto Onsen”, with their hint of sulfur, is well known as a major hot spring retreat from the Kanto region. The “Kinugawa Onsen” follows the Kinugawa gorge, and the many inns that are popular among foreign tourists. The “Kawaji Onsen” is located at the confluence of the Ojika-gawa River and Kinugawa River gorges and is relatively close to another famous tourist site, the Ryuokyo Gorge. The Kawamata Onsen, upstream along the Kinugawa River, boasts open-air baths that offer unimpeded views of the beautiful scenery. The “Oku-Kinu Onsen town” features four secret hot springs regarded as the last of their kind in the Kanto region and is collectively known as the Four Hidden Hot Springs of Oku-Kinu. The “Yunishigawa Onsen” nestled deep in the mountains features stunning scenery and is legendary for healing the wounds of the warriors known as Heike-no-Ochiudo (Defeated Warriors of the Taira Clan).

伝統工芸

Traditional Crafts

Many crafts began with the construction of the Nikko Toshogu Shrine



Traditional skills and fine arts nurtured by the regional history and customs

Among the traditional Nikko arts and crafts handed down over generations, many began with the construction of the Nikko Toshogu Shrine by Tokugawa Iemitsu, the third shogun of the Edo shogunate.

take tremendous skill to create are more than just items for daily use; they are prime examples of fine arts and crafts.

Similarly, miniature tea ceremony items, known as “Local Art Work: Nikko Tea Ceremony Set,” have been made for pleasure by wood carvers that normally made “Nikko-bori (Wood Carving)” carvings.

“Nikko Geta (Wooden Clogs)” trace their roots to the area's shrines and the monks who wore them but became popular in the latter part of the Meiji era. Footwear made of rootstocks woven with bamboo skins is highly functional as they are cool in the summer and warm in the winter.

In addition, Nikko boasts many other traditional crafts that originated in the history and customs of the

region, such as “Imaichi Turned Products”,” Imaichi Cedar Incense”, and “Ashio-yaki (Ceramics)”.



What is the Nikko Brand?

Nikko is an international tourist town drawing more than 10 million visitors annually.

Various resources that are located in the region, such as sights and events, increase the town's value and attraction and define the "Nikko Brand."

For example, the town's long history and culture and its precious natural resources and diverse hot springs, as well as its food, customs, festivals, traditional crafts, and other forms of local industry, have deep roots in local lives and are a uniquely attractive aspect of this international tourist town. Our aim is to improve Nikko's visibility by showcasing these features to the world, thereby revitalizing the region.



Nature

With 2,000-meter-high mountains in the background, Nikko's natural surroundings are largely untrammied by human hands, such as its water sources that feed the local watershed along with its many waterfalls and hot springs resorts in the mountains.



History & Culture

A World Heritage Site, Nikko has seen its resort culture blossom on the shores of Lake Chuzenji, which is rich with historical buildings, including many shrines and temples.



Traditional Crafts

Beginning with the construction of the Nikko Toshogu Shrine, various crafts in this town have been handed down over many generations. These traditional skills and art enrich the region's history and customs.



Food

Many of Nikko's foods, such as handmade soba noodles, are renowned due the unique flavor imparted by use of the area's pure, natural water. Another example is the "Nikko Yuba," a healthy soy-based product whose roots can be traced back to the diet of monks. Nikko has an abundance of both agricultural products and prepared foods.